道徳教育実践事例集

～道徳教育総合支援事業～

平成28年度指定校・指定地域

伊勢崎市立名和小学校　富岡市立南中学校
県立渋川青翠高等学校　藤岡市教育委員会

平成29年3月

群 馬 県 教 育 委 員 会

は　じ　め　に

道徳の特別の教科化に向けては、平成２７年４月１日より、改正学習指導要領の内容の一部または全部について指導を行うことが可能（移行措置期間）となっており、小学校は平成３０年度、中学校は平成３１年度から、改正学習指導要領の内容が全面実施されることとなります。

全面実施に向けての準備期間が、小学校で残り１年、中学校で残り２年と迫ってきた今、教員一人一人の指導力の向上を図り、各校における道徳教育を充実させることが、最も大切なことであると考えます。特に道徳の授業においては、年間35単位時間が確実に確保されるという「量的確保」と、児童生徒が道徳的価値を理解し、これまで以上に深く考えてその自覚を深めるという「質的転換」がカギになります。

県教育委員会では、これまでも文部科学省の委託を受け、「道徳教育総合支援事業」を推進し、その成果の普及に努めて参りました。本年度は、昨年度に引き続き、伊勢崎市立名和小学校、富岡市立南中学校、県立渋川青翠高等学校を研究指定校に位置付け、学校全体で道徳教育の実践的な研究に取り組んでいただくとともに、研究発表会を開催していただきました。また、藤岡市教育委員会を指定地域に位置付け、道徳教育における小中一貫教育の推進に取り組んでいただきました。

この「道徳教育実践事例集」は、平成２８年度の各研究指定校・指定地域の研究内容の概要や取組をまとめたものです。各学校においては、本事例集を道徳教育の一層の充実を図る上での参考としていただければ幸いです。

終わりに、本事例集の作成に当たり、御尽力いただきました各研究指定校・指定地域をはじめとする関係の皆様に心から感謝申し上げます。

平成２９年３月

群馬県教育委員会
義務教育課長　　三好　賢治
高校教育課長　　山口　政夫

目　　次

Ⅰ　研究指定校・指定地域の取組

○　伊勢崎市立名和小学校の取組　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
ともによりよく生きようとする児童の育成
－思いや考えを伝え合い、互いに深め合う道徳の時間の工夫・改善を通して－

○　富岡市立南中学校の取組　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
多様な価値観を尊重し、よりよい生き方を追求する生徒の育成
－思いや考えを伝え合う指導方法の工夫－

○　県立渋川青翠高等学校の取組　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
信頼される社会人として活躍する力（「礼」「誠」「明」）の育成

○　藤岡市教育委員会の取組　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５
道徳教育における小中一貫教育の推進

Ⅱ　資料

○　教育課程の編成・実施状況調査（道徳）の概要　・・・・・・・・・　３３

○　「特別の教科　道徳」の指導方法・評価等について（報告）【概要】・・　３４

○　「今後の道徳教育の充実に向けて」
～教科化に向けて、各学校で取り組んでいただきたいこと～　・・・・　３５

Ⅰ　研究指定校・指定地域の取組

○研究の概要（伊勢崎市立名和小学校の取組）

１　教育活動全体を通じて行う道徳教育

○日常における深い児童理解、温かい学級経営を行うなど、いじめの未然防止に努めるとともに、人権教育講師招聘学習会や講演等を行い、よりよく生きる児童の育成に努めた。
○全教育活動での道徳教育がその特質に応じて意図的、計画的に推進され、相互に関連を図れるように、道徳教育全体計画とその別葉、年間指導計画の見直しを行った。
○６年生主体による縦割り（異年齢集団による交流）活動や各種集会、あいさつ運動や委員会活動、学級での当番・係活動など、自己有用感や自己肯定感をはぐくむ体験活動などの充実を図った。

２　「思いや考えを伝え合い、互いに深め合う」道徳の時間の工夫・改善

○道徳教育推進教師が各学年の道徳の時間にＴＴとして支援できるようにするとともに、各学年の道徳授業日を同じ曜日に設定し、授業づくりや準備・振り返りを一緒にできるような学年内の協力体制を構築した。
○道徳の時間をより充実させるため、学年部会を組織の中心とし、授業づくり・授業研究会・授業改善をPDCAサイクルで定期的に行った。
○明確な指導観をもとに教材分析を行い、中心発問から授業構想を行うとともに、話合いをより活性化するために中心場面に補助発問を位置付けた。また、互いに考えを深めるための手立てとして、様々な表現活動の工夫を行うことで、道徳的価値について互いに深め合える授業実践の充実を図った。
○内容項目の４つの視点で色を変え、教材名を書いた「道徳の花」を授業後教室に掲示し、内容の視覚化・共有化を図ることで、道徳授業の確実な時数確保を組織的に行った。

３　家庭・地域との連携

○授業ごとに道徳家庭通信を発行するとともに、授業で使用する振り返りシートに保護者欄を設置することにより、学校と家庭が双方向で道徳教育に取り組んだ。
○学習参観や学校公開日における積極的な道徳授業公開を行うとともに、保護者参加型の授業を全クラス意図的に設定した。また、保護者や地域人材・ボランティアによる授業協力を効果的に活用することで、家庭・地域への道徳教育啓発に努めた。

４　研究の成果

○学習指導過程を検討し明確にすることで、全職員に「考えを深めるための工夫」の共有化を図ることができた。また、本校スタイルの学習指導案の検討、中心発問における「深めるための補助発問」を取り入れることにより、児童が道徳的価値を自分事として捉え、じっくり考え、思いや考えを互いに深め合うことができた。
○学習指導要領や年間指導計画、全体計画の別葉などに沿った明確な指導観に基づく略案を作成し、一人２授業の実践、全案を作成しての各学年３授業公開、その後の学年検討会に取り組み、積み重ねていくことで、授業づくりを核とした研究を進め、道徳の時間の工夫・改善につなげることができた。
○道徳教育全体計画の別葉を職員室に掲示し、視覚化を図るとともに、実践を基に加筆・修正を行うことで、他の教育活動との関連を図りながら補充・深化・統合を意識した道徳授業を構想することができた。

伊勢崎市立名和小学校の研究内容

１　学校の概要

学校名	所在地	電話番号	児童数
いせさきしりつなわしょうがっこう 伊勢崎市立名和小学校	伊勢崎市堀口町502-1	0270－32－0072	４７１人

２　研究課題

ともによりよく生きようとする児童の育成

－思いや考えを伝え合い、互いに深め合う道徳の時間の工夫・改善を通して－

３　研究課題の設定理由

道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うという道徳教育の基本的な考え方を引き継ぎ、道徳教育の趣旨を踏まえた効果的な指導を学校の教育活動全体を通じて、より確実に展開することで、教育課程の改善を図っていきたいと考えた。

道徳科の目標に示されているように、よりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるかを自ら考え続ける姿勢こそ道徳教育で養う資質であり、道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、「考え、議論する道徳」へと転換を図ることが大切である。

本校の児童は、困っている友達や下級生に優しく声をかけるなど思いやりの気持ちをもって接し、素直な児童が多い。花壇の花や教材園の野菜などの身近な自然を大切にしたり、身近な地域の人々と関わったりしながら明るく元気に生活をしている。しかし、よいと思っていても自分の考えに自信がもてず、積極的な行動につながらないところなど、理解した道徳的価値について日常生活に生かし切れない姿も見られる。また、他者の考えを尊重したり根拠をもって自ら考えたりすることはできてきているが、生活経験や学習経験と結び付けて自分事として考えるまでには至っていない。さらに、友達の考えを生かしたり取り入れたりして、これまでの自らの考えを深めることについても十分とはいえない。

以上のことから、本年度、副主題を「思いや考えを伝え合い、互いに深め合う道徳の時間の工夫・改善」とし、道徳の時間において、自分の思いや考えを伝え合い、他者の考えを自らの考えに取り入れたり生かしたりして、他者と関わりながら互いの考えを深め合う、多面的・多角的に考える話合い活動を取り入れることとした。そして、学習活動を工夫・改善することによって、「ともによりよく生きようとする児童の育成」を図っていきたいと考え、本主題を設定した。

４　研究の概要

(1)　研究のねらい

道徳の時間において、児童一人一人が、自らの思いや考えを伝え合い、他者の考えを自らの考えに取り入れたり生かしたりして互いに深め合うことにより、多面的・多角的に考え、他者と関わりながら自己の生き方を見つめ、「ともによりよく生きようとする児童」を育成する。

(2)　研究仮説

道徳の時間において、自分の思いや考えを伝え合い、他者の考えを自らの考えに取り入れたり生かしたりして、多面的・多角的に考える話合い活動を取り入れ、工夫・改善することによって、他者と関わりながらともによりよく生きようとする児童を育成することができるであろう。

(3)　研究の内容

①　研修主題「ともによりよく生きようとする児童」の明確化・共有化

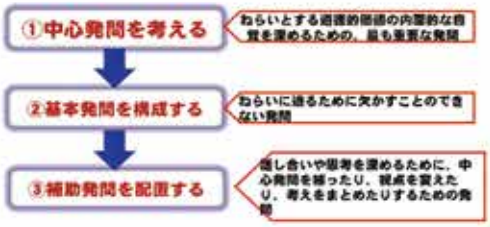
他者との関わりの中でよき人間関係を築きながら、他者の思いや考えを理解したり、自分の考えと比較したりすることで人間としての生き方についての考えを一層深め、他者とともにこれからの自分の生き方をさらに高めることができる児童と考えた。

②　思いや考えを伝え合い、互いに深め合うための道徳の時間の工夫・改善

ア　発問構成・発問の工夫

発問構成の際、教師が明確な指導観のもとに教材分析を行い、どのように道徳的価値の理解を図るのかを明らかにし、それとぶれないよう中心発問から検討していくこととした。また、児童が「自分の思いや考えを伝えたい」と思える発問、つまり、児童が自分との関わりで考えられる発問、必然性や切実感のある発問となるよう工夫・改善した。そして、中心発問で出された思いや考えを基に、価値理解・人間理解・他者理解が促され、互いに考えを深め合うことができるような視点となる発問を「深める補助発問」とし、中心発問における話合いの中に位置付けた。解決策の結果を考察させたり、可逆性を考えさせたり、普遍性を問うたりするなど、児童の心を揺さぶったり、深く考えさせたりする多様な発問を用意して授業展開を行うことで、児童が多面的・多角的に考え、互いに深め合うとともに、価値の理解も深めることができた。

【発問構成】



【深める補助発問の種類と具体例】

A　解決策の結果を考察する補助発問

「□するとどうなりますかそれはなぜですか。」

☆効果
・行為を行った結果まで踏み込んで考えることにより、自分事として考えた本音や現実論を出すことができる。

☆活用例
□に入る言葉
「難しくできなかったら」
「正直に言えたら」

B　可逆性を考える補助発問

「自分がそうされたらどうですか。それはなぜですか。」

☆効果
・他者の立場に自分を置き換え、その解決策が自分に適用されてもよいかを尋ねることで、より広い視野で多面的・多角的に物事を考えることができる。

☆活用例
・相手の立場や思いを考えさせたいときに有効である。

C　友達の考えに目を向ける補助発問

「出された考えの中で、なるほどなと思うのはどれですか。」

☆効果
・自分と異なる友達の考えについてより深く考えることができる。

☆活用例
・自分では気付かなかったことや、自分の考えが深まったり広がったりしたことの視点で考えさせる。

D　共通している気持ちを考える補助発問

「これらの考えに共通しているのはどんな気持ちですか。」

☆効果
・価値について焦点化できる。

☆学習活動例
・同じような考えが出されたときや、異なる考えの中にも価値に関わる共通点があるときに使うことができる。

E　一つを取り上げて考える補助発問

「この考えについてどう思いますか。」

☆効果
・教師が意図的に一つの考えを取り上げることで児童は価値についてより深く考えることができる。

☆活用例
・「この考え」の部分には、より深く価値に迫れるものを選ぶ。
・少数の考えを取り上げて考えさせることもできる。

F　普遍性を考える補助発問

「いつでも、どこでも、誰に対してもそうできますか。」

☆効果
・広い視野で様々な可能性を想定し、普遍妥当な解決策を考えることができる。

☆学習活動例
・人間理解を視点にした価値理解を捉えさせたい場合、有効である。

イ　体験的な活動・表現方法の工夫

○　役割演技・動作化

役割演技・動作化を取り入れることにより、児童は登場人物の感じ方や考え方などを自分との関わりで考えることができるようになった。特に、即興的演技である役割演技は、児童の今までの経験に裏付けされたものとなる場合が多く、このような体験を積むことで、児童が様々な問題場面に出会ったときに望ましい行為を主体的に選択できるようになると考えられる。いずれにしても、指導者の明確な指導観のもと、どの場面でどのように取り入れればよいかいうことを考え、実践してきた。

役割演技

動作化

○　思いや考えの視覚化

ねらいとする道徳的価値について、心情スケールや表情カード、ハートメーターなどを活用し、自分の思いや考えを可視化することにより、それらの根拠が明確になり、他者理解も促され、自分の考えを深めることにつながった。

心情スケール

表情カード

○　書く活動・話合い活動の活用

書く活動は、児童の学習の個別化を図ることができ、授業者の発問を児童一人一

人が確実に受け止め、自らの考えを明確にしたり、整理したりする機会として重要な役割をもつ。しかし、書く活動だけでは、道徳的価値の自覚を深めるには十分とは言えない。そこで、書く活動に加えて、自分の思いや考えを発表したり、友達の感じ方や考え方と比較したりする話合い活動を取り入れることが、道徳的価値の自覚を深めるためにさらに有効であり、児童相互の考えを深める中心的な学習活動と捉えた。その形態については、教師のコーディネートによる児童相互の交流をはじめ、児童同士によるペアでの対話、グループでの話合いなど多様に考えられる。本校では、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるための教師の明確な指導観をいつも念頭に置き、話合いの場や形態を考えてくこととした。授業後、児童の成長の記録としてワークシートや振り返りシートを道徳ファイルに蓄積し、ポートフォリオ評価として生かしている。

児童同士による対話

○　板書の工夫

黒板全体をシアター風にして、ペープサートや場面絵などを用いながら板書を構成していく「黒板シアター」は、児童の教材に対する興味・関心を高めるとともに、教材理解を促すことができる児童が自分事として考え、思いや考えを深めていくのに低学年では特に有効であった。また、類型化したり、対比的・構造的に示したり、中心発問における児童の思いや考えを吹き出し黒板などを使って大きく浮き立たせたりするなど、様々な方法があるが、どれも教師が明確な意図をもって行うようにした。このように板書を工夫することで児童は他者理解を深めるとともに、自分の思いや考えを深めることができた。

黒板シアター

吹き出し黒板による類型化

ウ　児童の心を引き込む教材提示の工夫

場面の状況や登場人物への共感を通して、児童の心を引き込む教材提示の仕方を考えた。BGMを流しながらの読み聞かせや紙芝居、スクリーン、ペープサートの活用など、授業者の意図による多様な教材提示により、児童が自分との関わりで道徳的価値について考えられるよう工夫した。

スクリーンによる教材提示

③　全教育活動における道徳教育の推進・充実

ア　道徳教育全体計画、年間指導計画、別葉の見直しと活用

重点内容項目については、新学習指導要領「特別の教科　道徳編」や学校教育目標、児童の実態等を考慮し、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄの４つの視点から１つずつ設定し、それらに基づく目指す児童像を入れた道徳教育全体計画の見直しを行った。次に、「わたしたちの道徳」「小学校道徳読み物資料集」（文部科学省）・「道徳郷土資料集『ぐんまの道徳小学校』」（群馬県教育委員会）、複数の出版社の副読本など、児童の実態に合わせて教材を幅広く選び、年間指導計画を作成した。特に、重点項目を網掛けで強調することで、全職員の意識化・共有化を図ることができた。さらに、道徳教育は、学校行事や他教科との関連を図っていく必要性があると考え、別葉を職員室に掲示・視覚化を図り、学期毎に加筆・修正した。このことにより、職員が「補充・深化・統合」を意識し、教育活動全体を通じての道徳教育という認識ができ、実践につなげることができた。

別葉の見直し

イ　特別活動における体験活動等の充実

○　いじめの未然防止としての児童会活動

５・６年生の代表委員と生活委員が中心となり、いじめの未然防止活動の一貫として「あいさつ運動」に取り組んできた。「あいさつで　心つながる　名和小の“わ”」をスローガンとし、あいさつに焦点を当て、明るく元気でいじめのない学校にしようという児童の願いが盛り込まれている。また児童集会では、いじめ未然防止に主体的に関わる意識を醸成するため「名和小いじめ防止隊」の劇を行った。児童が自ら発案して台本を作り、児童目線の劇をすることにより、いじめをなくすことの大切さはもちろん、いじめを許さない、見過ごさないことがよりよい人間関係づくりにつながるということを伝えることができた。集会後、いじめ防止隊隊員証を希望者に発行することで、児童一人一人に、いじめの未然防止のための意識の高揚を図ることができた。

劇「名和小いじめ防止隊」

名和小いじめ防止隊 隊員証

○　自己有用感をはぐくむ縦割り活動・異学年交流

６年生を中心とし、全校児童が一緒に遊び、関わり合う縦割り活動を実施している。他にも６年生から５年生へマーチング指導を行ったり、４年生から３年生へ総合学習の発表会を行ったりするなど、上級生としての自覚や責任をもち下級生をリードする場でもあり、異学年の児童が自己有用感をはぐくむことのできるよい機会となっている。

６年生→５年生へ

４年生→３年生へ

ウ　環境整備

○　「わたしたちの道徳」を活用した掲示

「わたしたちの道徳」は、道徳の時間だけでなく、身近な所に置いて学級活動などの時間に事前指導として読んだり、書いたりしている。さらに、事後指導として、学んだことを教室や廊下に大きく掲示し、常時誰でも見ることができるようにすることで、児童の意識の高揚を図ってきた。

○　道徳コーナーの設置

各学年における道徳の時間の実践を校長室前に掲示し、児童や保護者等が興味・関心をもって見ることができる場となるよう工夫した。道徳教育の視覚化により、児童は自分たちの授業の様子を振り返ったり、他学年の実践の取組を理解したりすることができた。また、職員室内に「職員のための道徳コーナー」（教材・参考文献等）を設置することにより、職員が道徳教育や道徳の時間について、いつでも気軽に学べる場・話し合える場となった。

各学年の道徳コーナー

④　家庭・地域への啓発・連携

ア　授業公開ならびに授業参加

道徳教育を推進していく上で家庭への啓発や連携を図り、協働体制で進めていくことは、大変重要である考え、学習参観では全クラス、学年ごとに同じ内容項目で道徳の授業を公開した。その際、参観している保護者にインタビューに答えてもらったり、役割演技やゲストティーチャーとして授業に参加してもらったりした。

保護者と
役割演技

イ　道徳家庭通信の発行・振り返りシート

毎時間、道徳の授業後に「授業のねらい」「お話のあらすじ」「子

どもの様子と学校での指導」「家庭で話し合ってほしいこと」を『道徳家庭通信』で知らせている。また授業後、振り返りシートを持ち帰って保護者に見ていただき、一緒に考えることを通して、家庭でも道徳の授業について話し合い、家庭と学校の連携を深めてきた。

振り返りシート

5　実践研究事例

「明確な指導観」をもち、価値理解を意図した道徳の授業（第２学年）

(1)　主題名　　「よいと思うことはすすんで」（Ａ　善悪の判断、自律、自由と責任）

教材名　　「ぼく、よびにいってくる」　（出典；文溪堂　２年生のどうとく）

(2)　明確な指導観

①　価値観

「善悪の判断」つまり、人として行ってよいこと、社会通念として行ってはならないことをしっかり判断する力は、児童が幼い時期から徹底して身に付けていくべきものである。また、判断したことを行動に移すためには、よいと思ったり正しいと判断したりできる自信や自律的な態度を身に付け、自らを信じて何事にも積極的に取り組めるようにしなければならない。この時期の児童が、このような善悪の判断力と行動力を身に付けることは大変意義深いことと考える。そこでよいことについて友達に左右されることなく、自律的に判断し、よいと思うことを進んで行おうとする実践への動機付けを図っていきたい。

②　児童観

生活科の「どきどきわくわくまちたんけん」の単元では、相手や場に応じた適切かつ安全な行動について考えながら活動計画を立て、自分で判断し、行動する体験をしている。学級活動の「学習態度を見直そう」では、望ましい学習態度について考え、正しい行動ができるようにしていこうとする意欲を育てている。このように様々な活動を通して、児童は、善悪の判断とそれを進んで行うことについて考えてきたが、児童の思考は断片的で、よいと思うことを進んで行うことの大切さについてじっくり考える経験が少なかった。そこで本時では、「統合」を意図し、よいことを進んで行うことの大切さや難しさを自分との関わりで考えさせ、善悪の判断をし、よいと思うことを進んで行おうとする態度を養いたい。

③　教材観

ぽんすけが、ぽんきちににらまれても、「ぼく、よびにいってくる。」と言って駆け出すことによって、他のたぬきも自分のしたことに気付き、追いかけるという、善悪の判断をし、よいと思うことを進んで行おうとする姿が描かれている。そこで、この部分を中心発問とし、ぽんすけに共感させることを通して、自分との関わりで考えさせ、どんな状況においても、よいことと悪いことを正しく区別し、よいと判断したことは自分から進んで行うことが大切であるという価値理解を深めさせたい。ぽんすけの行動を通して正しい判断に基づいて進んで行動することのよさや大切さに気付かせることのできる教材であると考える。

④　展開の大要　□中心発問　☆補助発問

過程	学習活動・主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
課題をつかむ 3分	１．様々な場面の絵を提示し、自分ならこんな時どうするか、発表する。 ・悪口を言うのはよくないことだから、「やめよう。」と言う。	・補助黒板を使い、様々な場面絵を提示しながら自由な雰囲気で発言させ、ねらいとする価値への方向付けを図る。
	２．教材「ぼく、よびにいってくる」の紙芝居を見て、話し合う。 (1)「かくれるんだ。」と言われて石に化けたとき	・紙芝居で資料提示することで､児童の内容理解を助ける。 ・しっぽを出したぽんすけの切

価値を追求する 27分	のぽんすけの気持ちを考える。 ・気付いてくれるといいな。 【価値理解】【人間理解】【他者理解】 (2)「ねえ、ぽんたもなかまに入れようよ。」と言ったときのぽんすけの気持ちを考える。 ・ぼくも仲間外れにされちゃうといやだな。 【価値理解】【人間理解】【他者理解】 (3)ぽんすけは、どんなことを考えて「ぼく、よびにいってくる。」と言って走り出したのでしょう。 ・ぽんたがかわいそうだよ。 ・ぽんた、ごめんね。やっぱり、仲間はずれはよくなかったよ。 ・みんなで一緒に遊ぼう。サッカー以外の他の遊びをすればいいんだよ。 【価値理解】【他者理解】 ☆みんなは、どんな気持ちでぽんすけの後を追いかけたのでしょう。 ・やっぱり、みんなで一緒の方が楽しいな。 ☆よいことをするって、どういうことかな。 ・少しの勇気で、みんながうれしくなる。	り抜き絵を提示しながら、悪いことと分かっていても隠れてしまったぽんすけの気持ちを自分との関わりで考えさせる。 ・「ぽんたもなかまに入れようよ。」と言うことはよいことなのに、なかなか言えないぽんすけの気持ちに共感させる。 ・ぽんたを呼びに行こうとするぽんすけの気持ちを、教師と児童との役割演技を通して、自分との関わりで考えさせる。 ・行動した後の気持ちよさや清々しさを周りの人も願っており、みんなも自分の行動を後悔し、よいことをしたいと考えていることに表情カードを活用して気付かせる。
価値の内面化 15分	3．これまでの自分を振り返る。 「みんなは、正しい行動ができているかな。」 ・自分が楽しいと周りの友達のことを考えなかったので、よく考えて仲良くしたい。 【価値理解】【自己理解】 4．普段接している同学年の先生から話を聞く。	・書くことで児童一人一人の価値の内面化を図り、実践意欲につなげていく。

(3)授業記録（T：教師　C：児童）

T：ぽんすけは、どんなことを考えて「ぼく、よびにいってくる。」と言って走り出したのでしょう。（中心発問）

＊ぽんすけをにらむ「ぽんきち」を教師、ぽんたを呼びに行こうと決心した「ぽんすけ」を児童が演じる役割演技を通して、ぽんすけの思いを深く考えさせた。

T：先生は「ぽんきち」、みんなは「ぽんすけ」になって、役割演技を通してぽんすけの気持ちを深く考えていきたいと思います。

でも、３対３じゃあサッカーできないよ。

ぽんたも一緒に遊びたかったと思うなあ。

じゃあ、違う遊びでもいいと思うよ。鬼ごっことか・・。

鬼ごっこならできそうかな。でも、ぽんたがいなくてもいいんじゃない？

それはだめだよ。みんなと一緒に遊びたいよ。そうしよう。

T：（演技の中断と話合い）はい、そこまでにします。見ていたみなさんは、どう思いましたか。

C１：やっぱり、一人になるのは寂しいし、かわいそうだから、みんなで遊べる遊びをや

るのは、いい考えだと思います。それなら、みんなが一緒に楽しくできるし。
Ｃ２：仲間外れをすると、自分も嫌だし、相手も嫌で、遊んでいても楽しくないと思うな。

(4)　考察

①　教師の明確な指導観（価値理解）に基づいた発問構想

○　ぽんたを呼びに行くかどうか葛藤が生じる場ではなく、「ぼく、よびにいってくる。」と、ぽんすけが決心した場を中心発問とし、役割演技を設定した。そうすることで正しいことを進んで行うことのよさ（価値理解）を考えさせたいという、教師の明確な指導観に基づく発問構想であった。

○　役割演技では、ぽんきちを教師、ぽんすけを児童が演じることで、考える視点をぽんすけに当てて、多様な思いを引き出せるようにした。

②　授業者の意図を表した板書の工夫

○　場面絵をペープサート風にして掲示したり、葛藤場面を２色のハートで表したり、吹き出し黒板（赤）を使って中心場面を浮き立たせたりすることにより、ぽんたの思いを視覚化することにより、ねらいとする道徳的価値に関わる多様な感じ方や考え方があるという他者理解が促された。

○　板書の効果的な活用により、よいことを行動に移すことの難しさや大切さ、よさなどの人間理解や価値理解を図ることができた。

板　書

６　研究の成果及び課題

(1)　研究の成果

・　学習指導過程を検討し明確にすることで、全職員に「思いや考えを伝え合い、互いに深め合うための工夫」の共有化を図ることができた。また、本校スタイルの学習指導案の検討、中心発問における「深めるための補助発問」を取り入れることにより、児童が道徳的価値を自分事として捉え、じっくり考え、思いや考えを互いに深め合うことができた。

・　全職員が、学習指導要領や年間指導計画、全体計画の別葉などに沿った明確な指導観に基づく略案を作成しての一人２授業の実践、全案を作成しての各学年３授業公開、その後の学年検討会（必要に応じて関係学年会）に取り組み、積み重ねていくことで、授業づくりを核とした研究を進めることができ、道徳の時間の工夫・改善につながった。

・　道徳教育全体計画の別葉を職員室に掲示し、職員の意識化・共有化を図るとともに、実践後、加筆・修正することで全教育活動を通じた道徳教育を推進することができた。さらに、「補充・深化・統合」を意識した、道徳の授業を構想することができた。

・　保護者・地域対象の道徳授業公開、保護者参加型の授業実践、道徳家庭通信の発行や振り返りシートの保護者欄の設置などを通して、学校と家庭・地域とが連携した協働体制で道徳教育を推進することができた。

(2)　今後の課題

・　児童の多様な思いや考えを引き出し、それらをうまくコーディネートするだけでなく、児童が道徳的価値について主体的に考え、互いに交流できる場を意図的に設定することで「考え、議論する道徳授業」を展開し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めていけるような質の高い授業実践に努めていく必要がある。

７　参照できるホームページ

http://www.isesaki-school.ed.jp/nawasyo/　（伊勢崎市立名和小学校）

○研究の概要（富岡市立南中学校の取組）

１　学校教育全体で行う道徳教育の推進

○本校生徒の実態から、一層伸ばしたい道徳性として、「向上心・個性の伸長」「思いやり・感謝」「よりよい学校生活・集団生活の充実」「生命の尊さ」を重点内容項目とし、全体計画の中に位置付けて実施した。
○道徳の年間指導計画を、教科等学校教育活動全体との関連を図りながら見直すとともに、道徳教育全体計画の別葉を作成し、これを活用して「補充」「深化」「統合」のいずれかに位置付けた道徳の指導案のもと授業を行った。
○授業で学習した内容を日常生活の中で振り返り、日常的な自覚につながるように、各学年の道徳の授業で行った内容や生徒の感想等をまとめたものを廊下壁面に掲示した。また、授業で使った読み物等の教材と生徒の書いたワークシートを１つのファイルに保管し、授業と関連する学校行事等の前後で生徒が書いた感想等も同じファイルに綴じておくことで､生徒の心の成長が見取れるようにした。

２　授業改善（思いや考えを伝え合う指導方法の工夫）

○要請訪問や講師を招いた月１回程度の公開授業及び全職員による研究授業において、指導案の形式を統一し指導観（価値観・生徒観・教材観）を明確にした授業を行った。
○「ねらい」→「中心発問」→「中心発問に導く発問」の順に授業を構想し、価値を焦点化して、教材の内容に沿った価値の追求を通して理解を深めることを共通理解した上で実践に臨むこととした。
○中心となる授業の形態が「教師の発問→生徒の発言」の繰り返しから、「生徒の発言→生徒の発言」へとなるよう工夫し、生徒相互の伝え合う場への移行に努めた。
○授業の中で生徒が互いの思いや考えを伝え合うための手立てとして、学級全体、グループ・ペアでの伝え合い、カード等による意思表示の視覚化、座席の形態等の様々な工夫を指導案に明示して、授業を行った。
○研究授業と研究会で話し合われた改善点等を「研修だより」にまとめて全員で共有化を図り、以後の道徳授業に生かすことで授業の質的向上を図った。

３　家庭との連携

○本校独自に毎月19日を家庭における「道徳の日」と定め、その日に合わせて道徳通信「Myハート通信」を発行した。その中で、日々の実践を紹介するとともに、毎月テーマを決めてそれに関する資料を「私たちの道徳」等から選んで提供し、親子で話題にする機会を設定することで、道徳的意識の向上を図った。
○学校と家庭が連携して道徳教育を推進していく道標を共有化するために、本校の道徳教育の重点項目を中心にまとめた啓発リーフレットを家庭や地域に配布した。
○学校の道徳教育への理解を深めてもらうために、保護者対象の道徳教育に関するアンケートを年２回実施し､その結果を家庭と連携した指導を行うための資料とした。

４　研究の成果

○研究授業において､指導観を中心に指導案の統一を図り､全職員の共通理解のもと、道徳の授業を行ったことで、教師の授業構想力、伝え合う活動の工夫等の質的な向上が見られた。その結果、生徒が道徳の授業に主体的、協働的に取り組むようになった。
○２年間を通じて特別講師を招いての基礎研修と授業研究会の積み重ねにより、教師に道徳授業における基本的な考え方や手法が身に付き、道徳の授業に自信をもって向き合うことができるようになった。また､指導主事による要請訪問を複数回行い、国や県の動向に沿った指導方法の研修が充実し、授業改善に結び付いた。
○「伝え合う活動」の約束を簡潔にまとめた掲示物を作成し、全教室に掲示して､「伝え合う活動」を道徳の時間だけでなく、教科等の指導においても取り入れるようにした。その結果、生徒の発言への抵抗感が薄れ、自分の思いを少しずつ他人に伝えられる場面が増えてきた。
○道徳ファイルを活用したり、授業で扱った内容を廊下に掲示して共有したりしたことで、生徒は学習したことを日常的に繰り返し振り返ることができ、道徳的価値への関心の高まりや自覚が感じられるようになった。これらのことにより、よりよい生き方を追求する姿勢にも向上が見られた。

○富岡市立南中学校の研究内容

1　学校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数
とみおかしりつみなみちゅうがっこう 富岡市立南中学校	富岡市中高瀬1118番地	0274-64-1603	３５７人

2　研究主題　　多様な価値観を尊重し、よりよい生き方を追求する生徒の育成
―思いや考えを伝え合う指導方法の工夫―

3　研究主題の設定理由

本校は、市の中央を東西に流れる鏑川の南に位置し、周囲は田園に囲まれ自然が豊かで、学習環境に恵まれた地域にある。「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力をもち、心豊かでたくましい生徒の育成」の学校教育目標のもと、日々の教育に当たっている。また、本校では、道徳教育と関連付け、平成10年度から自問教育に取り組んでいる。現在は、「朝読書」「ノーチャイム･ノー号令」「自問清掃」を自問活動の柱とし、生徒会活動と連携して「我慢の心・思いやりの心・気付きの心・感謝の心・正直な心」の五心を醸成している。

本校の生徒は、明るく素直な生徒が多く、生徒会を中心として「日本一の学校南中」を合言葉に学校生活に意欲的に取り組んでいる。一方で、自分の意志や考えを他者に積極的に伝えることが苦手な生徒や、困難な課題に対し自ら解決策を考え克服しようとする強い意志が身に付いていない生徒もいる。また、生徒同士の人間関係については、全体的に良好といえるが、些細なことが原因でトラブルに発展することがあるのも事実である。これは相手の考えや個性を受け入れたり、話合いによりお互いを理解し合ったりして、うまく折り合いをつけて解決することが苦手なことが原因として考えられる。生徒の人間関係づくりと豊かな人間性の育成は、本校の課題の一つである。

また、道徳性検査の結果から見ると、本校の生徒はほとんどの項目で全国平均並みかそれを上回っており、全体として望ましい傾向にある。その中で評価の割合が比較的低かった項目として、「節度」「向上心」「自然愛、畏敬の念」「個性伸長」が挙げられる。これらの結果を参考にして、各学年ごとに課題を明確にし日々の教育活動に当たることで、より一層の道徳性の向上が期待できる。

このような実態から、生徒が自他のよさを互いに認め合い、よりよい人間関係を築く能力を身に付けることが、これからの自分の人生を切り開き、よりよい人生を歩んでいくために欠かせないことである。そこで、平成27・28年度文部科学省委託事業の道徳教育の研究指定校を受けたことで、学校全体で道徳教育を進めていきながら､特に道徳の時間の授業改善を中心に研究に取り組もうと考えた。その中で、教材の選択や発問の工夫に加えて、互いの思いや考えを伝え合う指導方法を改善し、充実させていくことにより、生徒の道徳性を養うことができると考え、本主題を設定した。

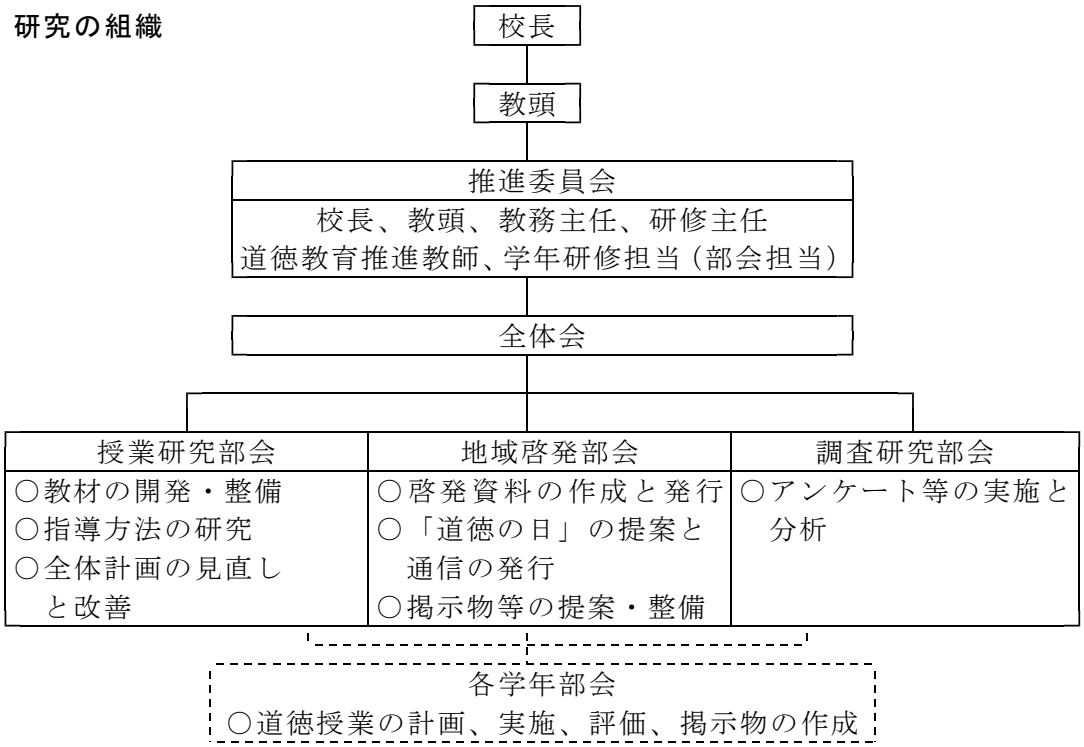
4　研究の概要

(1)　研究のねらい

生徒の実態や発達の段階を踏まえ、互いのよさを認め合い、よりよい生き方についての自覚を促すため、道徳教育諸計画の改善を図るとともに、特に道徳の時間における資料提示の仕方や発問構成を工夫し、生徒が互いの思いや考えを伝え合う中で、思考を深め、価値を自覚できるよう指導の改善を図る。

(2)　研究の組織及び研究の経緯

①　研究の組織



②　研究の経過

平成２７年度の研究

月日	回	主な研修内容
4. 3	①	研究主題、道徳の指導計画、授業について
4.20	②	研修の全体計画、道徳の授業について
5.旬		道徳教育指導者養成研修（中央研修）１名参加
5.25	③	研究の組織、要請訪問指導案検討
	④	**第１回要請訪問道徳授業研究会（３年）**
6.15	⑤	道徳教育指導者養成研修伝達、一人１授業計画作成
6.22		先進校視察（高山村立高山中学校）
6.24	⑥	先進校視察の報告
6.25		アンケート調査実施
7.23		全体計画別葉①（行事との関連表）作成
		全体計画別葉②（教科、特活等との関連表）作成
8.10		道徳教育パワーアップセミナー（東京学芸大）２名参加
8.25	⑦	パワーアップセミナーの報告
8.31	⑧	**道徳教育講演会（文科省教科調査官澤田浩一先生）**
9. 7	⑨	道徳授業の進め方についての共通理解
10.13	⑩	研究授業指導案検討
10.19	⑪	**２学年研究授業、講師による講話①**
11.16	⑫	**第２回要請訪問道徳授業研究会（１年）**
12. 7	⑬	研究授業指導案検討
12.14	⑭	**１学年研究授業、講師による講話②**
12.25		「道徳教育指導実践事例集」原稿の作成検討
1.18	⑮	要請訪問指導案検討
1.25	⑯	**第３回要請訪問道徳授業研究会（２年）**
2. 4	⑰	全体計画・年間指導計画の見直し、研修集録作成
3. 3	⑱	研修のまとめと来年度の計画

平成２８年度の研究

月日	回	主な内容内容
4. 5	①	研究計画等の確認、研究授業者の提案、決定
4.15		道徳性検査及び校内アンケート実施
4.19	②	**特別講師富岡先生の模擬授業と講義**
4.25		**保護者授業参観における道徳授業公開**
5.13	③	**道徳研究授業（３年）、富岡先生による指導**
5.旬		道徳教育指導者養成研修（中央研修）１名参加
6. 6	④	**要請訪問における道徳授業公開（各学年）**
6.13	⑤	中央研修報告、実践報告書の分担、各研究部会
6.20	⑥	各研究部会より提案、要請訪問指導案作成
6.29		**計画訪問における道徳授業公開（各学年）**
7.19		生徒、保護者、教師へのアンケート調査実施
7.28	⑦	アンケート結果分析、各研究部会（実践報告書分担）
		研究発表会指導案の検討
8.26	⑧	実践報告書原稿の集約
9. 5	⑨	指導案の検討、掲示物の整備、各学年部会
9.12	⑩	**要請訪問における道徳授業公開（各学年）（プレ大会）**
9~10月		実践報告書の校正
10.17	⑪	模擬授業及び指導案の見直し
11.14	⑫	発表準備
11.24		**道徳教育総合支援事業研究発表会**
12. 5	⑬	研究発表会の反省と授業研究会、実践報告書のまとめ
1.23	⑭	取組の反省と今後の方向性
2. 6	⑮	全体計画・年間指導計画の見直し
3. 6	⑯	研修のまとめと来年度の計画

(3)　研究の内容

①　基本的な考え方

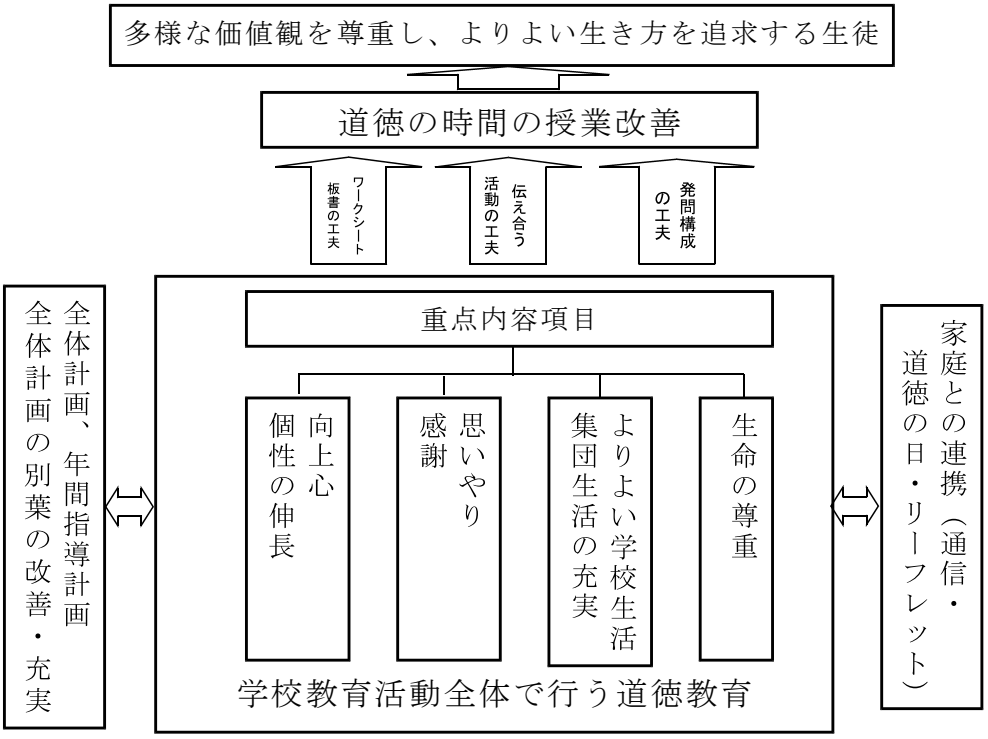
ア　「多様な価値観を尊重する」とは

ここでいう「価値観」とは、いわゆる道徳の内容項目における「価値」の違いを指すものではなく、一つの道徳的価値に対する捉え方や感じ方の違いを指すものである。具体的には、授業中他人の考えや意見を聞いて自分との違いを知り、そこで否定したり対立したりするのではなく、違いを認め受け入れることを意味している。

イ　「伝え合う」とは

本研究における「伝え合う」とは、課題に対する自分の考えをペアや小グループ、あるいは全体の場で「語る」のが基本であるが、それ以外にも、人の意見を聞いて頷いたり、カードに自分の立場を書いて示したりするようなことも含まれる。人の発言に対して必ず自分の考えをもつこと、そしてそれを積極的に人に伝えようとすることを意味している。

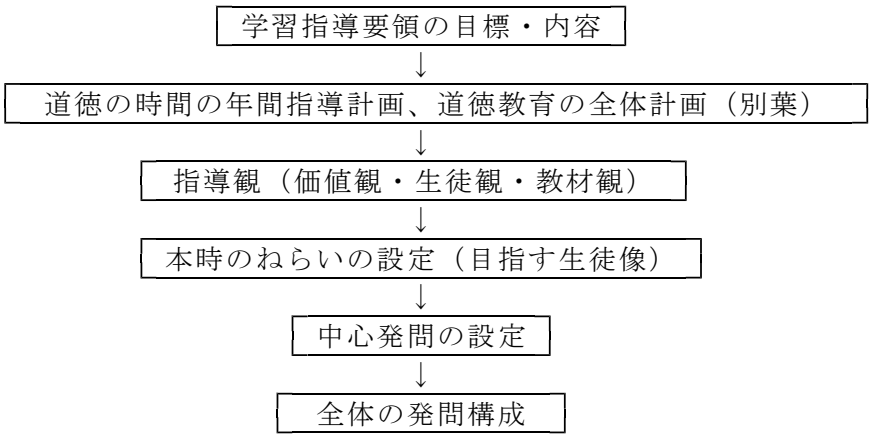
②　研究の全体構想図



③　道徳の時間の指導の工夫

ア　授業構想の手順

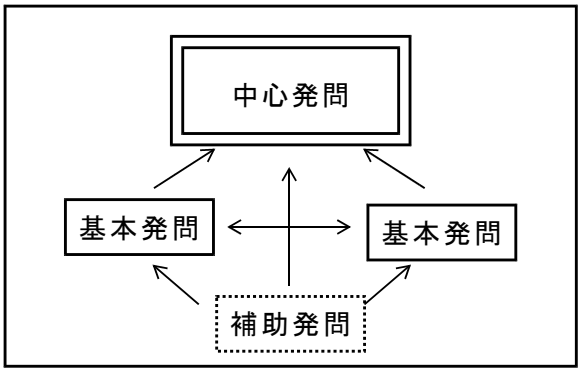
授業構想に当たっては、学習指導要領の目標・内容、年間指導計画を踏まえ、価値観、生徒観、教材観の３つの指導観を明らかにした上で、まず①「ねらい」を設定する。これは､授業の終末における目指す生徒の姿として考える。そして②「ねらい」に迫るための「中心発問」を考え、③その中心発問に導くための「発問構成」を決めていく。その際、それぞれの発問が独立して存在するのではなく、相互に関連し合って必然的な流れになるように配慮した。

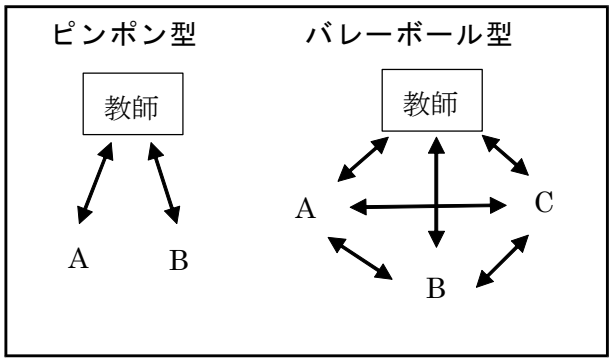


イ　発問構成の工夫

１時間の授業で発問の数は３つから４つ程度がよいとされている。中心発問に導く基本発問のほかに、生徒の活発な意見が出ない場合の補助発問を用意しておくことも大切である。

次に、とかく道徳の授業では教師の発問に対し､個々の生徒が答えていく一問一答のやりとりの繰り返しとなるいわゆる「ピンポン型」に陥りがちであるが、本校では１人の意見に対し､理由を聞いたり、他の人の意見を求めたりするいわゆる「バレーボール型」のやりとりになるよう心掛けている。教師が生徒の様々な意見を上手に引き出すコーディネーター役になると、そのやりとりの中で価値をより深めていくことが期待できる。ただ、そのためには、教師がそれなりのスキルを身に付ける必要があり、本校の研修においても大きな課題となっている。

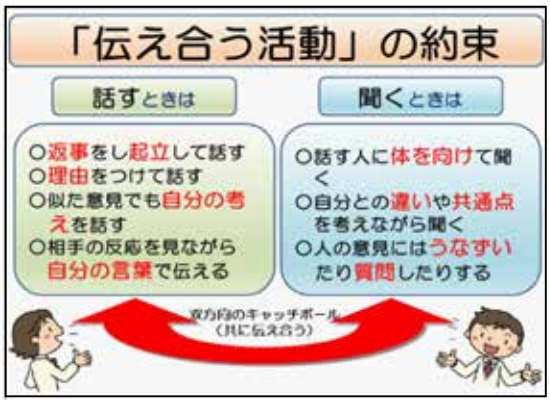




ウ　「伝え合う活動」の工夫

「伝え合う活動」は、昨年７月に文部科学省から出された学習指導要領の一部改正の解説にある「考える道徳」「議論する道徳」を具現化するための手立てとして考えたものである。私たちが期待する「伝え合う活動」は､道徳の時間だけで身に付くものではなく､各教科における日常的な実践の積み重ねが必要であると考えた。そこでまず、意見交換のやりとりが活発に進むように、下図のような基本的な約束を決め、これを全ての教室に掲示して､道徳の時間以外の場面でも意識をして実践に取り組むようにした。

また、私たちが期待する「伝え合う活動」の具体的なイメージを生徒がもてるように､「伝え合う活動」のモデルを作成し、全校集会でビデオを見せながら説明をした。理想の姿としては、テーマについて各自が互いの顔を見合いながら、意見のやりとりができることを目指している。



また、「伝え合う活動」の形態は、ペア、小グループ、全体とし、それぞれを授業の流れや伝え合うテーマの内容に応じて使い分けるようにしている。

また、意見を言いやすくしたり、お互いの意見を理解するための補助として、付箋紙、短冊、カードを使うなどの工夫をしている。

エ　道徳ファイルの活用

３０穴のリングファイルにクリアホルダーを綴じて、道徳の授業で使った教材やワークシートを入れている。また、行事などで書いた感想等は、ルーズリーフに書いて、関連する価値のところに挟み、道徳の授業で学んだ価値を振り返ったり、心情の変容などに気付けるようにした。このようにポートフォリオとして残しておくことで、教師も個々の生徒の評価を行うときの資料としても活用することができると考える。

④　家庭との連携

本校では、家庭との連携を図るため、毎月19日を「道徳の日」と定めた。月ごとに設定したテーマに関する資料を「私たちの道徳」から選び、生徒が自分の考えを書いて家庭に持ち帰り、親子で話し合ってもらうこととした。あわせて、この日に道徳通信「Myハート通信」を発行し、学校での学習内容を紹介するとともに、家庭での協力を依頼したり、寄せられた保護者のコメントなどを紹介したりしている。

５　授業実践事例

(1)　「道徳的心情を育てる伝え合う活動の工夫」（第３学年）

①　生徒の実態

相手のことを思いやり、相手の立場に立って考えることができる生徒がほとんどである。しかし、日々の関わりの中で思いやりの感じられない言動を見聞きする場面がある。また、周囲の様子から、気が付いても思いやりの行動に起こせないことが多い。周囲の状況を理解し、相手の心を察し、行動しようとする意欲を育てたい。

②　授業者の思い

教材を使って、若い夫婦の注文を受けた後のキャストの言動とその言動を起こしたときの心情を考えることを通して、相手のことを考えて行動しようとする道徳的心情を育てたい。

③　指導のポイント

○　展開の、「ことばを詰まらせたキャストがどんなことを考えていたのか」と問う場面では、ワークシートのハートの中に複数の思いを、大きさを考慮して書き込み、夫婦にお子様ランチを出してあげたい思いとマニュアルを守らなければという思いがあることをおさえる。

○　中心発問では、まずキャストのすごいところ、よいところを取り上げ、その理由やキャストの心情を個人で考えさせる。その後、４人グループで伝え合う活動を行わせる。聞く生徒は、発表内容と同じ意見や納得をした時に「イイネ！」と言いながらグッドポーズをする。その後、どの部分がイイネと思ったのか、あるいはなぜその部分をイイネと思ったのかを伝え合っていけるように促す。

○　全体でイイネと思ったところを伝え合い、多様な価値観にふれた後、言動以外のキャストのすごいところ、よいところを個人で考えることで、キャストが相手の心を察し、相手の気持ちを考えて行動していたことに気付けるようにしていく。

(2)　学習指導案

①　主題名　「相手の心を察する」（Ｂ：思いやり、感謝）

②　ねらい　若い夫婦の注文を受けた後のキャストの言動とその心情を考えることを通して、相手の気持ちを考えて行動しようとする道徳的心情を高める。

③　教材名　「あるレストランでのできごと」（出典：日本文教出版）

④　教材の概要

東京ディズニーランドの人気レストランでのできごとである。若い夫婦からお子様ランチの注文を受けてキャストは困惑するが、事情を聞くと亡くなった娘の誕生日にお子様ランチを頼みたいとのことだった。マニュアルには９歳未満の子ども以外には、お子様ランチが出せないことになっている。キャストは悩んだ末に、笑顔と気遣いで夫婦にお子様ランチを出してもてなす。このキャストの行為はマニュア

ル違反であるが、お客様の気持ちを察した接客は会社から讃えられ、夫婦からも感謝の手紙が届いた。

⑤　展開の大要

過程	生徒の学習活動（・）と 主な発問（○基本　◎中心発問）	予想される生徒の反応 （期待される反応は〰〰）	時間	支援及び留意点
導入	・今日の授業は東京ディズニーランドのあるレストランについての話であることを知る。		5分	・生徒にとって関心の高い話題にすることで、学習への意欲を高められるようにする。
展開	・教材１の範読を聞く ○ことばを詰まらせたとき、キャストはどんなことを考えているのだろう。 ・ワークシートに記入する。（個人） ・近くの席の人と伝え合う。 ・自分の考えを板書し発表する。(全体) ・キャストがお子様ランチを夫婦に出したことを知る ・ 教材２の範読を聞く ・このキャストのことをどう思うか、発表する。	・どうしよう。困った。かわいそう。 ・マニュアルを守らなきゃ。 ・お子様ランチを出してあげたい。 ・どうにかしてあげたい。 ・キャストはすごい。 ・キャストはいい人だ。すてきな人だ。	20分	・キャストの悩む気持ちを理解しやすいように、複数の思いを、それぞれの大きさも考慮しながら記入できるワークシートを用いる。（人間理解） ・価値理解へ向けての方向付けを行う。 ・生徒の反応をもとに、次の中心発問につなげられるようにする。
	〈伝え合う活動〉 ◎キャストの「すごい」「いいね」と思ったところはどこですか？理由も書きましょう。 ・ワークシートに記入する。（個人） ・グループで話し合う。（グループ） ・全体で発表する。（全体）	「勇気を出して二人に聞いた」 →・聞きづらいことなのに ・相手の様子を見て、何か事情があると感じた。 「いつもの笑顔で声を」 →・相手が気を遣わないように 「大人四人が座れるテーブル」 →・三人のゲストという思い	20分	・キャストの言動の中でイイネと思った部分を取り上げ、その理由、気持ちを考えさせる。（価値理解） ・４人グループで伝え合う活動を行わせる。自分の考えを伝えたり、他者の意見に対して相づちや賞賛、質問をしたりさせる。（他者理解）
終末	・本時の感想をまとめる	・もっと相手の気持ちを察して行動していきたいと思う。 ・相手のことを本気で考える、思いやりのある人間になっていきたい。	5分	・本時の感想を、自己の振り返り、今後の生活と絡めて考えさせる。（自己理解）

(3)　授業記録（中心発問を中心に抜粋　Ｔ：教師　Ｓ：生徒）

Ｔ：キャストの「いい人だなぁ」と思うところは、どんなところですか。ワークシートの枠の中に書き出してください。理由も書いてください。

Ｓ：（約８分間記入）

Ｔ：４人グループになって、キャストのいいところを発表してください。同じ意見だなと思ったり、なるほどそういう意見もあったかと思ったら、グッドポーズをして相手に「イイネ！」と伝えてください。

S1：マニュアル違反だとわかっていながら、「お子様ランチを出した」のはすごいと思うよ。自分のことよりもお客様のことを考えているよね。

S2：そうだよね。この意見は「イイネ！」だね。私はそれも大事だと思うけど、子様ランチを出す前に大人４人がけのテーブルに移動して、イスを子供用に取り替えたことも「イイネ！」と思うよ。

S3：どうしてそう思ったの？

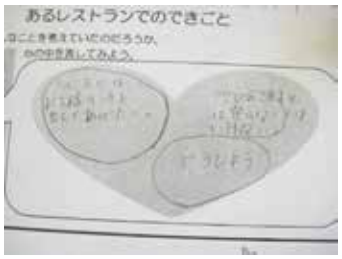
S2：夫婦のお願いに答えるだけじゃなくて、亡くなった子どものことも夫婦の気持ちも考えて、子どもがそこにいるようにテーブルやイスを取り替えてくれたんじゃないかなと思ったんだ。

S3：なるほどね。そのキャストの行動も「イイネ！」だね。

S4：僕は「いつもの笑顔で」というところを「イイネ！」と思った。普通と同じように接してくれると安心すると思うんだよね。

(4)　考察

「キャストの気持ちをハートの中に、気持ちの大きさも含めて表す」や「『イイネ!』と伝える」は、「心の可視化」として効果的である。教師の話す時間を減らし、生徒が考えたり伝え合ったりする時間をもっと確保したい。「お子様ランチを出す」というキャストの行動の根底にどんな心情があったのかを深く掘り下げていけるとよい。できるだけ生徒から出た複数の価値観は取り上げて、それらを踏まえて生徒自身が総合的に判断できるようにすることが大切である。また、指導者として「期待される生徒の反応」を指導案の中にたくさん書けるとよい。



６　研究の成果と課題

(1)　研究の成果

・　研究授業において、指導観を中心に指導案の統一を図り、全職員の共通理解のもと、道徳の授業を行ったことで、教師の授業構想力、伝え合う活動の工夫等の質的な向上が見られた。その結果、生徒が道徳の授業に主体的、協働的に取り組むようになった。

・　２年間を通じて特別講師を招いての基礎研修と授業研究会の積み重ねにより、教師に道徳授業における基本的な考え方や手法が身に付き、道徳の授業に自信をもって向き合うことができるようになった。また、指導主事による要請訪問を複数回行い、国や県の動向に沿った指導方法の研修が充実し、授業改善に結びついた。

・　「伝え合う活動」の約束を簡潔にまとめた掲示物を作成し、全教室に掲示して、「伝え合う活動」を道徳の時間だけでなく、教科等の指導においても取り入れるようにした。その結果、生徒の発言への抵抗感が減り、自分の思いを少しずつ他人に伝えられる場面が増えてきた。

(2)　今後の課題

・　生徒はペアや小グループでの「伝え合う活動」に慣れてきたが、この活動を通して道徳的価値の自覚をさらに深めていくための指導法について、さらなる研究が必要である。また、学級全体での「伝え合う活動」の場面において、生徒の考えをさらに引き出し深めていくことや、生徒同士による「伝え合う活動」となるために、教師のコーディネーターとしての技術を一層磨いていく必要がある。

・　道徳の授業と学校全体における教育活動との関連付けを図ってきたが、今後は教科や行事等における道徳的価値の自覚を一層深めるために、道徳ファイルのより効果的な活用法について研究を深めていく必要がある。

７　参照できるホームページ

http://www.nc.t-minami-jhs.gsn.ed.jp/（富岡市立南中学校）

○研究の概要（県立渋川青翠高等学校の取組）

１　本校における道徳研究の在り方と研究課題の設定

○　校訓「礼・誠・明」は、道徳的には「公共の精神を養うとともに、社会性の育成を図り、より良い人間関係を築こうとする力の育成」を目的としたものである。
○　より良い社会を実現するため、社会性や道徳心の育成、マナー向上などの道徳教育を効果的（意図的、計画的）に実施できる最終教育機関として、「信頼される社会人として活躍する力（「礼・誠・明」）の育成」を学校教育活動の目標とした。
○　本校は総合学科高校のため選択科目が多く、クラス単位での授業が少ない。そこで特別活動や各教科、そして、総合学科高校で原則としてすべての生徒が履修する教科である「産業社会と人間」を重視した実践研究を行った。

２　体系的・組織的な道徳教育の推進

○　昨年度組織した「道徳教育実践推進委員会」が立案し、校務運営委員会や職員会議で検討した後、全職員で道徳教育の研究を実践した。
○　昨年度同様、中央研修への参加、県外の先進校視察、文部科学省より講師を招き講演会を実施するなど、道徳教育について職員個々の理解をより深めるため、研修機会の充実を図った。
○　昨年度全校生徒を対象に実施した、新学習指導要領における中学校の「特別の教科　道徳」から２２項目のアンケート調査を、今年度も定期的に実施し、生徒の道徳的意識の実態の把握と、結果に基づいた意識が低い項目についての改善に努めた。
○　特別活動については、各種行事においてそれぞれに道徳的な意味付けをしただけでなく、生徒自身にも各自に道徳的目標を設定させ、意識の高まりや実践などを自己検証させた。

３　特別活動、家庭や地域との連携における取組

○　全校生徒による、校地および学校周辺の道路等の清掃活動を実施し、奉仕活動等に主体的に参加し活動することの意義を考えさせた。
○　昨年度同様、球技大会やマラソン大会、開校記念式典などの学校行事に際し、道徳的な目標をもたせて臨むことが「信頼される社会人」への成長に結び付くことを意識させるよう配慮した。
○　海外の高校生と交流し、海外の文化を知るだけでなく、我が国の文化を海外の高校生に伝えることを通して、国際理解や我が国の文化についての考えを深めた。

４　公開研究授業の実施

○　道徳教育支援事業１年目は学校行事（文化祭）を取り上げ、「文化祭への取組から信頼される社会人について考える」というテーマでＬＨＲを実施した。行事全般に対する取組は今年度も変わらないが、２年目は教科における研究授業を実施した。
○　総合学科高校の他学科高校との最大の相違点は「産業社会と人間」という科目にある。今年度は「産業社会と人間」において道徳教育を意識した取組を行い、その実践を公開研究授業の場で発表した。
○　普通教科においても授業の中に道徳的要素を取り入れることに取り組み、国語科で「現代文Ａ」の『山月記』を教材として、公開研究授業を実施した。

５　研究の成果

○　職員は、講演会、学校行事の道徳的取組だけでなく、各教科指導の中での道徳的取組をとおして、高等学校教育における道徳教育の在り方を学び、道徳教育を推進する意識が向上した。
○　生徒は、学校行事をはじめ、日常生活や学校生活のあらゆる取組において道徳的目標を設定することで、道徳的意識の高まりを実感し、「信頼される社会人として活躍する力」を身に付けることを意識して生活することができた。

県立渋川青翠高等学校の研究内容

１　学校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数
群馬県立渋川青翠高等学校（ぐんまけんりつしぶかわせいすいこうとうがっこう）	渋川市渋川3912-1	0279-24-2320	５７９人

２　研究課題

信頼される社会人として活躍する力（「礼」「誠」「明」）の育成

３　研究課題の設定理由

「礼節を重んじ」、「誠実に」、「賢明に」生きるということは、人間関係を大切にし、いろいろな人の立場を理解した上で、寛容の心を持ち、謙虚に、そして、自身の目標に向けて前向きに生きていくことである。高等学校教育は、社会に出る直前の学ぶ場であり、本校では、「公共の精神を養うとともに、社会性の育成を図り、より良い人間関係を築こうとする力」を育成することを主眼に据えて道徳教育の在り方を研究し、体系的、組織的かつ意図的、計画的に推進する必要があると考えた。

４　研究の概要

(1)　研究のねらい

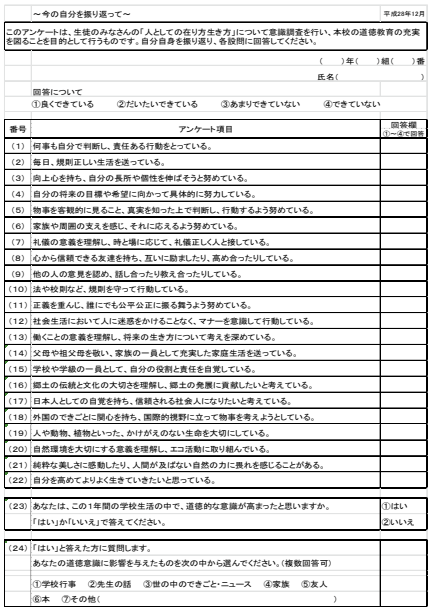
校訓「礼」「誠」「明」の実現には、道徳教育の推進が不可欠であり、そのことが高等学校学習指導要領の目指す「生きる力」の育成にもつながると考え、本校における体系的、組織的な道徳教育の在り方について研究することとした。

(2)　研究の内容

①　体系的・組織的な道徳研究の推進

○　道徳アンケート「今の自分を振り返って」

生徒の実態を把握するため、平成２７年３月施行の新学習指導要領による中学校の道徳項目に基づいた２２項目の「今の自分を振り返って」というアンケートを、昨年度６月と１月に実施し、今年度は４月と８月、そして１２月の３回実施した。



～今の自分を振り返って～　　平成28年12月

このアンケートは、生徒のみなさんの「人としての在り方生き方」について意識調査を行い、本校の道徳教育の充実を図ることを目的として行うものです。自分自身を振り返り、各設問に回答してください。

（　　）年（　　）組（　　）番

氏名（　　）

回答について
①良くできている　②だいたいできている　③あまりできていない　④できていない

番号	アンケート項目	回答欄（①～④で回答）
（1）	何事も自分で判断し、責任ある行動をとっている。	
（2）	毎日、規則正しい生活を送っている。	
（3）	向上心を持ち、自分の長所や個性を伸ばそうと努めている。	
（4）	自分の将来の目標や希望に向かって具体的に努力している。	
（5）	物事を客観的に見ること、真実を知った上で判断し、行動するよう努めている。	
（6）	家族や周囲の支えを感じ、それに応えるよう努めている。	
（7）	礼儀の意義を理解し、時と場に応じて、礼儀正しく人と接している。	
（8）	心から信頼できる友達を持ち、互いに励ましたり、高め合ったりしている。	
（9）	他の人の意見を認め、話し合ったり教え合ったりしている。	
（10）	法や校則など、規則を守って行動している。	
（11）	正義を重んじ、誰にでも公平公正に振る舞うよう努めている。	
（12）	社会生活において人に迷惑をかけることなく、マナーを意識して行動している。	
（13）	働くことの意義を理解し、将来の生き方について考えを深めている。	
（14）	父母や祖父母を敬い、家族の一員として充実した家庭生活を送っている。	
（15）	学校や学級の一員として、自分の役割と責任を自覚している。	
（16）	郷土の伝統と文化の大切さを理解し、郷土の発展に貢献したいと考えている。	
（17）	日本人としての自覚を持ち、信頼される社会人になりたいと考えている。	
（18）	外国のできごとに関心を持ち、国際的視野に立って物事を考えようとしている。	
（19）	人や動物、植物といった、かけがえのない生命を大切にしている。	
（20）	自然環境を大切にする意義を理解し、エコ活動に取り組んでいる。	
（21）	純粋な美しさに感動したり、人間が及ばない自然の力に畏れを感じることがある。	
（22）	自分を高めてよりよく生きたいと思っている。	

（23）	あなたは、この1年間の学校生活の中で、道徳的な意識が高まったと思いますか。 「はい」か「いいえ」で答えてください。	①はい ②いいえ

（24）	「はい」と答えた方に質問します。 あなたの道徳意識に影響を与えたものを次の中から選んでください。（複数回答可） ①学校行事　②先生の話　③世の中のできごと・ニュース　④家族　⑤友人 ⑥本　⑦その他（　　）	

○　県外先進校への視察

７月１２日　東京都立墨田川高等学校
１月１２日　埼玉県立栗橋北彩高等学校
１月１８日　千葉県立浦安高等学校

○　講演会の実施

９月　９日
講師　文部科学省　澤田浩一　教科調査官
対象　本校職員　県内高等学校教職員
演題　「高等学校における道徳教育について」

日本人は自尊感情が低くこれからの高等学校教育において、子供の心を育てることが大切であり、それを強化する特設の教科で道徳教育を進めることが必要となる。高等学校の道徳教育」は公民に、「人間としての在り方」は特別活動に入り、頭で考えるのは「公民」で、心で考えるのは「特別活動」や「総合的な学習の時間」であり、自己の在り方・生き方、キャリア教育を行い、それを踏まえて全体計画を作成することが大切である、というお話をいただいた。

１月１１日　講師　高崎経済大学　飯島明宏　准教授
　　対象　本校職員　本校２年生
　　演題　「大学で鍛える”問題解決能力”
　　～社会で必要とされる”力”とは何か？～」
１月１９日　講師　新島学園短期大学　駒田純久　教授
　　対象　本校職員　本校２年生
　　演題　「勤労観・職業観の形成に向けて」
２月１０日　講師　関口恵子（空羽ファティマ）氏（絵本作家）
　　対象　本校職員　本校１年生
　　演題　「生まれてきてくれてありがとう」

○　各教科における取組（学習指導案）

「国語科」

・教材名　「待つということ」（角田光代）

・考察

　この教材を使い、グループ学習で、生徒それぞれに筆者の態度について考えさせたい。また、その相手が、同国人ではなく、外国人ということについても考えさせたい。そこから、「思いやり」や「国際理解」をはじめ、人としての在り方を育む。

・指導目標（本時の目標）

○筆者の心情を読み取ることができる。
○自分のこととして考えることができる。

・本時の展開

生徒の学習活動	指導上の留意点
○筆者の行動について考える。 （グループワーク） ○話し合ったことを発表する。	・自分だったらどうするか考えさせる。 ・どうするべきだったのか考えさせる。

・評価

○道徳的心情を感じることができたか。

「数学科」

・教材名　集合

・本時の展開

生徒の学習活動	指導上の留意点
○集合とは 集合となるもの 集合とならないもの	・条件がはっきりしていないものの集まりは集合ではないこと ・他の人への配慮、仲間はずれ意識の回避

「英語科」

・教材名　Brave Mari and her puppies　「マリと子犬の物語」

・本時の展開

生徒の学習活動	指導上の留意点
○登場人物の心情を推測して作成した英作文を利用し、意見を交換する活動	・全員で協力できているかを確認し、必要に応じて援助する。

・英作文

If I were（　），I would think /say "（　　）".

・評価

○自分の考えを伝えるとともに、他の生徒の考えを的確に理解することができたか。

「保健体育科」

・教材名　運動・休養と健康

・本時の展開

生徒の学習活動	指導上の留意点
○スポーツを行う意義について考える。	・プリントを配布し、答えと理由を書き、発表させる。 ・発表を聞き、意見のある生徒にはその意見を述べさせる。

・プリント（概要）

サッカーＵ－16インターナショナルドリームカップで日本代表が世界でも最貧国と言われる国の代表に負けたことを取り上げ、生きるため、ひたむきに戦うことの大切さを教わった。

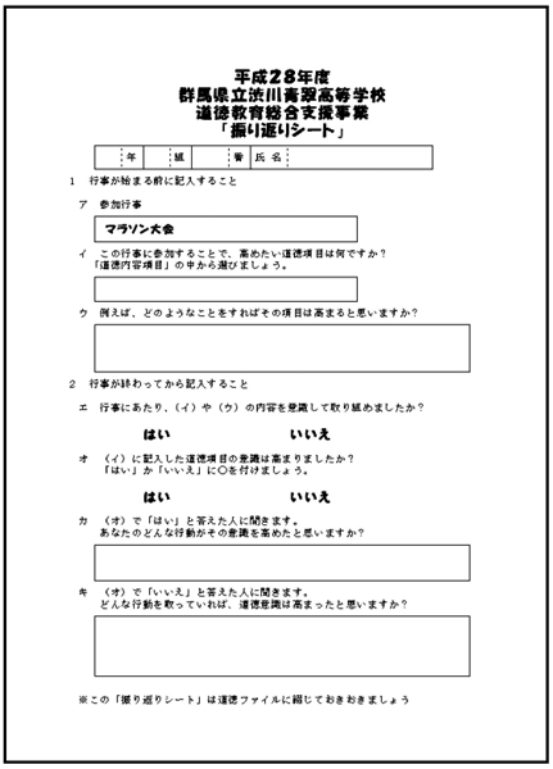
この４教科だけでなく、他の教科においても、授業の中に道徳的な意識を高める場面を指導計画の中に取り入れた。

②　特別活動、家庭や地域との連携

○　「振り返りシート」の活用

昨年度、特別活動を通して生徒の道徳に対する意識の変化について、特に文化祭に対する取組を取り上げ、研究してきた。今年度は教科中心の研究であったが、特別活動を通しての道徳意識の高まりは大きなものであったことから、「振り返りシート」を作成し、各行事の際、生徒個々が各自の道徳的な目標をもって取り組むことができるようにした。

なお、意識の変化については、昨年度同様、アンケート調査で検証した。



平成２８年度
群馬県立渋川青翠高等学校
道徳教育総合支援事業
「振り返りシート」

年　組　番　氏名

1　行事が始まる前に記入すること

ア　参加行事

マラソン大会

イ　この行事に参加することで、高めたい道徳項目は何ですか？
「道徳内容項目」の中から選びましょう。

ウ　例えば、どのようなことをすればその項目は高まると思いますか？

2　行事が終わってから記入すること

エ　行事にあたり、（イ）や（ウ）の内容を意識して取り組めましたか？

はい　　いいえ

オ　（イ）に記入した道徳項目の意識は高まりましたか？
「はい」か「いいえ」に○を付けましょう。

はい　　いいえ

カ　（オ）で「はい」と答えた人に聞きます。
あなたのどんな行動がその意識を高めたと思いますか？

キ　（オ）で「いいえ」と答えた人に聞きます。
どんな行動を取っていれば、道徳意識は高まったと思いますか？

※この「振り返りシート」は道徳ファイルに綴じておきましょう

○　「奉仕活動」の実施

昨年度まで本校では、県高校総体の開会式の際、学校に残留する生徒に対して映画教室を実施していた。今年度は内容を変更し、日頃、校地内であまり清掃をする機会がない場所と学校周辺の道路(歩道)の清掃を実施することにした。

当日は、１年生が校外、２年生がグラウンド、３年生が校舎周辺を中心に、ゴミ拾いや草むしりを行った。

5　実践研究事例

(1)　「産業社会と人間」における取り組み

①　「産業社会と人間」のねらい

平成28年度「産業社会と人間」

	月　日	曜日	内　容	
1 2	4月12日	火	オリエンテーション(1) 自分史の作成(説明・作文)	
3 4	4月15日	金	オリエンテーション(2) 自分史の作成(作文)	
5 6	4月19日	火	働くことについて・職業について知る 職業適性検査(職業レディネスの実施)	
7 8	4月22日	金	現代社会と今後の社会について 職業調査発表準備	
9 10	4月26日	火	職業調査発表準備 系列を理解する(系列と職業の関連性)	
11 12	5月 6日	金	職業調査発表 〃	キャンパス/職場見学・希望アンケート
13 14	5月10日	火	外部講師講話① 「働くことについて」	職業調査のまとめ
	5月13日	金	高校総体	
15 16	5月17日	火	上級学校を知る /スタートプラン1 スタートプラン2	
17 18	5月20日	金	スタートプラン3 キャンパス見学事前指導	系列授業の体験学習・希望アンケート グループ別
	5月24日	火	1学期中間試験	
19 20	5月27日	金	職場見学事前指導 ポスターセッションの説明・準備	グループ別
21 22	5月31日	火	キャンパス/職場見学	
23 24	6月 3日	金	キャンパス見学のポスターセッションの ポスター作成・発表準備	グループ別
25 26	6月 7日	火	キャンパス見学のポスターセッション	
27 28	6月10日	金	系列授業の体験学習① 系列授業の体験学習②	
29 30	6月14日	火	系列授業の体験学習③ 系列授業の体験学習④	
31 32	6月17日	金	外部講師講話② 卒業生(就職者・進学者)	
33 34	6月21日	火	後期科目の説明・希望調査 「未来の家族への手紙」の説明	第1回後期科目希望調査
35 36	6月24日	金	「未来の家族への手紙」作成	
	6月28日	火	1学期期末試験	
	7月 1日	金	1学期期末試験	
37 38	7月 5日	火	時間割オリエンテーション 教科科目ガイダンス①	人文科学・国際文化系列
39 40	7月 8日	金	教科科目ガイダンス② 教科科目ガイダンス③	自然科学・デザイン系列 生活文化系列
41 42	7月12日	火	教科科目ガイダンス④ 履修計画(時間割)の作成①	ビジネス・情報管理系列 第2回後期科目希望調査
43 44	7月15日	金	履修計画(時間割)の作成② ライフプランの説明	後期科目確定
	7月19日	火	球技大会	
45 46	8月30日	火	福祉交流事前指導 ライフプランの作成準備	グループ別 マークシートへの記入
47 48	9月 2日	金	福祉交流学習	
49 50	9月 6日	火	福祉交流のポスターセッションの ポスター作成と発表準備	グループ別
51 52	9月 9日	金	福利交流のポスターセッション	
53 54	9月13日	火	ライフプラン発表準備① ライフプラン発表準備②	
55 56	9月16日	金	ライフプラン発表①(クラス) ライフプラン発表②(クラス)	
57 58	9月20日	火	ライフプラン発表③(クラス) ライフプラン発表④(クラス)	
59 60	9月23日	金	系列オリエンテーション 履修確認	
61 62	9月24日	土	ライフプラン発表(学年)	
61 62	9月27日	火	ライフプラン発表のまとめ 「ライフプラン」冊子の作成	
63 64	9月30日	金	産社のまとめ アンケート 後期科目のオリエンテーション	

・自分史作成や体験学習等を通して、自分の適性や社会性等さまざまな自分の能力を理解する。
・職業調査、キャンパス・職場見学、福祉交流、外部講師講話により、現実の社会に関するさまざまな体験から情報を収集する。
・高校卒業後の進路、その先の職業を考えて将来設計を行う。そこから戻って、高校生活でどんな学習をし、どんな力をつければよいか原稿に書き出し、パワーポイントでまとめてライフプランとして公開授業の中で発表する。
・各系列の体験学習や教科ガイダンスなどから系列についての理解を深め、進路希望と合わせて系列決定し、履修計画を作成する。

②　ポスターセッションについて

９月９日（金）第６校時、道徳教育をテーマとしたポスターセッションを行った。公開授業に合わせ、「産業社会と人間について」「職業調査について」「職場体験について」「福祉交流について」の４テーマでそれぞれがグループを作り、授業で実践した調べ学習・体験学習・体験発表等を道徳的観点から模造紙やパワーポイントにまとめ、発表した。

以下は、今回身に付ける目標とした道徳的観点である。

・相互理解、寛容の精神の意識を涵養する。
・他人への思いやり、感謝の気持ちをもって、人に接する態度を育てる。
・社会参画の意識、勤労観、働くことの意義、公共の精神を涵養する。

(2)　「公開研究授業」

①　日時・教科･科目・教材

９月９日（金）６校時

「現代文Ａ」　『山月記』（中島敦）

②　道徳的ねらい

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見出す。

③　指導案

	時間	生徒の学習活動	支援及び指導上の留意点
導入	５分	○前時までの学習内容の確認。 ○本時の学習事項の確認。	○開始時、机間巡視し、服装を確認する。 ○ワークシートを配布する。
展開	30分	○李徴が虎になった自分の姿をどう感じているかを本文中から抜き出す。 （グループワーク） ○第５段落を音読する。 ○李徴自身が虎に変身してしまった理由として考えている言葉を捜す。 （グループワーク） ○虎に変身してしまった理由を話し合う。 （グループワーク）	○「醜悪」「あさましい」といった言葉に気付かせる。 ○丸読み等、短く区切りながら読ませる。 ○「臆病な自尊心」「尊大な羞恥心」という言葉に気付かせる。 ○自由な発想で考えさせる。
終末	15分	○人の在り方について考える。	○「信頼される社会人」とからめて考えさせる。 ○各グループでホワイトボードを使って発表させる。

(3)　学校行事・特別活動等における校訓に基づく道徳教育の配慮事項の例

活動名・分野・目的等	活動の様子	配慮事項
球技大会 ○競技を通して、礼儀、友情、遵法精神、公正、集団生活の充実、感動などの心を育む。		○生徒主体の運営とし、ルールを遵守し、助け合い、協力して競技運営させる。
一日体験学習会 ○学校紹介をすることで、自主、創造、思いやり、礼儀、郷土愛、勤労などの心を育む。		○自主性、創造性、積極性を意識して取り組ませる。

創立４０周年記念式典 ○記念の手形アートを全校生徒で協力して作成することで、責任、集団生活の充実、感動などの心を育む。		○全員で協力し、一つのものを作り上げる大切さを意識して取り組ませる。
マラソン大会 ○競技を通して、自律、向上心、克己と強い意志、友情、感動などの心を育む。		○克己心、向上心、責任感を意識して取り組ませる。
体育祭 ○競技を通して、自律、向上心、克己と強い意志を、クラス対抗で行うことにより、友情、感動などの心を育む。		○向上心や克己心、仲間との協力や責任感などを意識しながら取り組ませる。
国際交流 ○外国の高校生との交流を通して、思いやり、相互理解、国際理解などの心を育む。		○外国文化の理解や日本文化の理解、積極性を意識して取り組ませる。

○　創立４０周年記念式典

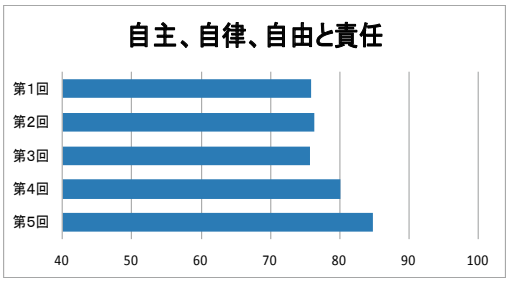
上記「学校行事」の中では「手形アート」の作成の場面を取り上げたが、今年は創立４０周年という節目であり、多くの場面において、校訓「礼・誠・明」と「信頼される社会人」を意識した取組が実践された。

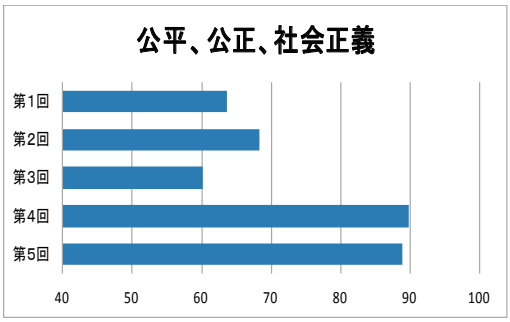
年度当初から導入された挨拶に続く声かけ運動（３ｗａｙ挨拶）や式典を迎えるための校舎清掃の徹底、高校生らしい清潔感のある身だしなみ、案内や駐車場の誘導などの係業務に対する取組など、具体的な実践を通して、それらが最終的には「信頼される社会人として活躍する力の育成」につながることを実感できた取組であった。

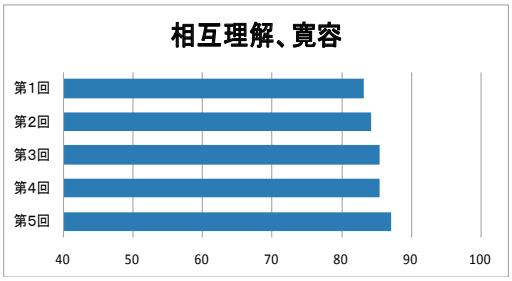
式典当日は、生徒全員が心をひとつにし、集中力を発揮して厳粛な式典にふさわしい態度で行動し、多くの来賓から賞賛の言葉をいただくことができた。この式典の成功も、生徒にとって自主性や協調性、自律心の向上につながり、大きな自信になった。

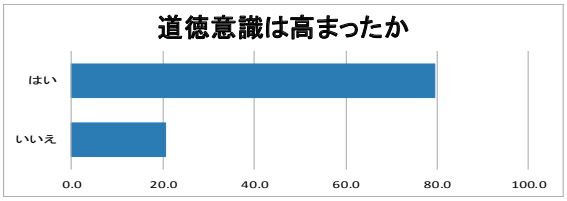
(4)　考察

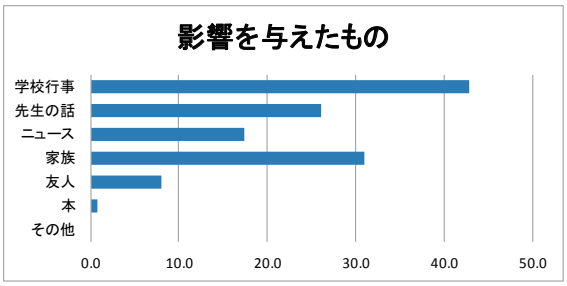
平成２７年６月から平成２８年１２月まで５回実施してきたアンケート結果では、２２項目のうち「節度・節制」以外の２１項目において、「良くできている」「だいたいできている」の数値は、第１回と比較して増加している。特に昨年度あまり数値の変化のなかった「自主、自律、自由と責任」「公平、公正、社会正義」の２項目が今年度になって大きく伸びたのは、昨年度１年間の積み重ねの結果と思われる。また、全校生徒のほぼ８割の生徒が「道徳意識は高まっている」と答え、その理由を「学校行事」や「先生の話」、「家族」としていることから、生徒の道徳意識を高めるためには、家庭との連携をとりながら、計画的に特別活動や教科指導における道徳教育が有効であると考える。

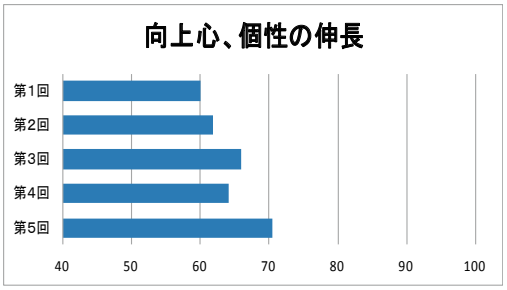












６　研究の成果及び課題

(1)　研究の成果

２年間にわたり「信頼される社会人として活躍する力（「礼」「誠」「明」の育成）」について道徳教育の観点から研究してきたが、生徒のアンケート結果を見てわかるとおり、教科指導の中で、そして、特別活動の中で、道徳的意識をもって計画的に職員や生徒が取り組むことで、生徒の意識の高まり、向上心や社会性、自律性が向上し、各自の持つ「信頼される社会人として活躍する力」の育成に繋がることが明らかになった。

(2)　今後の課題

来年度以降も引き続き、教科指導や特別活動を通して、生徒の道徳的意識を高めるための取組を継続していく。そのためには全体計画の検証や検討、各教科の指導計画の中に道徳的視点を盛り込む必要がある。また、家庭との連携を強化するために、ＰＴＡ総会やＰＴＡ新聞を通して、道徳教育の重要性を伝える必要がある。２年間の研究の成果を職員全員が共有し、高い意識を持って継続的に取り組んでいきたい。

７　参照できるホームページ

http://www. seisui-hs. gsn. ed. jp/（群馬県立渋川青翠高等学校）

○事業の概要（藤岡市教育委員会の取組）

１　道徳教育における小中一貫教育の推進

○昨年度、東中校区の小学校３校、中学校１校の児童生徒の課題を、教職員の意見や保護者・地域へのアンケート調査から把握し、東中校区の道徳教育における重点項目を設定した。本年度は、その設定した重点項目について、東中校区全体における小中一貫の系統表を作成し、その系統表に基づく実践を行うとともに、９年間の学びのつながりのある道徳の授業について校区全体で理解を深めた。

２　実践

○東中校区の重点項目について、重点項目に関係する各校の行事や、４校共通した取組、各校で利用している資料などを載せた系統表を作成した。
○作成した系統表に基づいた、授業実践を行い、学びのつながりのある授業について校区内の教員で理解を深めた。
○「道徳郷土資料集『ぐんまの道徳』」（H26 群馬県教育委員会）に載っている藤岡市に関係した資料を活用し、地域学習も兼ねた道徳の授業実践を行った。

３　教職員の資質の向上

○それぞれの学校で公開授業を行い、小中学校の教員が合同で授業研究を行うことで、学びのつながりのある道徳教育を行うために、どのような授業を行うべきかについて理解を深めた。
○道徳教育講演会を行い、発達段階に応じた授業の進め方や、読み物資料を基にした発問の構成の仕方などを知ることで授業力向上を図った。

４　地域・家庭との連携

○学級通信やＷｅｂページによる授業の様子の発信、授業参観等を通して、地域や家庭の意見や感想をうかがう機会を設け、より実践的な道徳の授業をめざし、授業改善を行った。
○道徳の授業で扱った内容項目について、ワークシートを家庭に持ち帰り、家庭でも考える機会を設けることによって家庭と連携して道徳教育を行った。

５　事業の成果

○東中校区の重点項目である「勇気・強い意志」「思いやり」「勤労・公共の精神」について、東中校区全体で小中一貫した系統表を作成したことで、小中９年間を見通した東中校区の道徳教育がより具体的になった。
○道徳教育講演会の開催により、教師の道徳に対する意識が高まるとともに、授業づくりの具体的なポイントについて学ぶことができ、指導力の向上につながった。
○地域や家庭に道徳の指導の様子を学級通信やＷｅｂページで発信したり、道徳の授業で行った内容項目について家庭で考えさせるような取組を行ったりすることで、地域や家庭と連携した道徳教育を行うことができた。

藤岡市教育委員会の事業内容

１　市の概要

教育委員会名	所在地	電話番号	学校数
ふじおかしきょういくいいんかい 藤岡市教育委員会	藤岡市藤岡１４８５	0274－50－8212	小学校１１校 中学校　５校

２　これまでの取組

「道徳教育における小中一貫教育の推進」

本市では、授業を中心とした教育における継続性・安定性の保障を目指し、平成２６年度から小中一貫教育に取り組んでいる。具体的には、小野小学校・小野中学校を先行実施校とし、小中９年間で目指す子どもの姿を明らかにするとともに、９年間を見通したカリキュラムづくりを進めてきた。その成果や課題をもとに、全校区で小中一貫教育を推進し、学びのつながりと生徒指導の継続に視点を置いた実践が行われている。

前年度も本事業による指定を受け、本市で取り組んでいる小中一貫教育の一環として、小中９年間で目指す子ども像の育成に向け、児童生徒の発達段階や学びのつながりを踏まえた道徳教育の推進を図った。

具体的には、本市にある５つの中学校区の中から、東中校区（藤岡第一小学校、美九里東小学校、美九里西小学校、東中学校）を指定校区とし、東中校区が９年間の教育活動で目指す子ども像である「広い心、頑健な体、信頼できる学力をもった子ども」に迫るための課題は何か、保護者や地域、教員の願いをもとに育てたい・伸ばしたい内容項目は何かといった観点で実態を分析し、「勇気・強い意志」「思いやり」「勤労・公共の精神」の３つを重点項目として設定した。

また、道徳ファイルや道徳ノートなどを準備して、授業で記述させた児童生徒の思いや考えを積み上げていく取組を校区全体で行うなど、小中一貫した道徳教育の充実を図ってきた。

３　研究の概要

(1) 研究のねらい

東中校区で定めている３つの重点項目に係る系統表を作成し、学びのつながりのある授業実践を行う中で、校区内の学校における協働による授業づくりや合同研修会、家庭や地域との連携を通して、さらに道徳教育の小中一貫教育推進体制を整え、教員の指導力向上及び家庭や地域の道徳教育に対する意識の高揚を図り、道徳教育の一層の充実をねらいとする。

(2) 研究の内容

①　東中校区の重点項目に係る系統表作成と実践

東中校区の重点項目である「勇気・強い意志」「思いやり」「勤労・公共の精神」に関わる道徳の授業をする際、内容項目の概要や各学年の指導上の留意点などが整理された系統表を作成する。系統表には重点項目に関わる教育活動や各校で使用されている資料も載せることで、教師が学びのつながりを意識した授業をする上で参照しやすいように作成する。また、作成した系統表を活用し、授業実践することで、重点項目をより意識した教育活動を行う。

② 教師の指導力向上

昨年度と同じ講師を招き、道徳教育後援会を行い、読み物資料の価値の分析やねらう価値に迫る発問の構成など、授業で活用できる具体的なポイントについて学ぶことで、授業力の向上を図れるようにする。

また、校区内の学校で学びのつながりを意識した公開授業や協働的な授業づくりを行うことで、教師が小中一貫した道徳指導についての意識を高められるようにする。

4 実践事例

＜小学校（５年）での道徳授業実践＞

① 主題名 相手の立場に立って Ｂ－（７）親切、思いやり

② 教材名 「くずれ落ちただんボール箱」（出典：東京書籍）

③ ねらい 困っている人を見たときに、その人の立場に立って考え、親切にしようとする心情を育てる。

④ 学びのつながり

	ねらいとする価値	資料名
小学校 低学年	身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	るいくんのゴール さんぽ道
小学校 中学年	相手のことを思いやり、進んで親切にする。	耳をおいてでかけられますか？ 心と心のあく手
小学校 高学年	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。	くずれ落ちただんボール箱 言葉の力、わたしの思い
中学校	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深める。	月明かりで見送った夜汽車

⑤ 指導の工夫

○ 心情円盤（「やりたい気持ち」をピンク、「やりたくない気持ち」を青で表現する）で主人公の心情を表現することにより、それぞれの児童が考えの違いを理解し、児童の多面的な意見を引き出せるようにした。

○ 中心発問では、ワークシートに自分の考えを書かせてから話し合いをすることにより、一人一人が自分の意見をもって主体的に話し合いに参加できるようにした。また、追発問し児童の考えを掘り下げ、類型化することによりねらいとする価値に気付くことができるようにした。

⑥ 学習の様子

孫がくずしてしまっただんボールを、おばあさんに代わってわたしと友達の友子が整理した。しかし、事情を知らない店員にだんボール箱をくずしたのが自分達だと勘違いされて叱られてしまう。納得のいかない二人であったが、３学期の始業式で、店員からの謝りの手紙を聞いて二人の心は明

るくなるという資料である。主人公の心の動きを追いながら、心の葛藤やすがすがしさに共感させながら授業を展開した。

＜主な発問と児童の発言＞

○　店員にしかられ、一緒に残りの段ボールを片付けるわたしはどんな気持ちだったでしょうか。

・わたしがやったわけではないのに。
・何で？どうしてわたしが怒られるの？
・こんなことになるなら、手伝わなければよかった。
・男の子のせいで怒られた。
・いいことをしたのに、怒られるなんてすごい嫌だ。

◎　おばあさんからお礼を言われたわたしはどんな気持ちだったでしょうか。

（心情円盤でやらなければよかったという気持ちを表現した児童の意見）

・怒られて嫌だけど・・・・。
・悔しいけど・・・・。
・手伝わなければよかった。

（心情円盤でやってよかったという気持ちを表現した児童の意見）

・やってよかった。
・お礼を言われたからよかった。
・男の子が見つかってよかった。
・おばあさんのためにだんボールを片付けた。よろこんでもらってよかった。
・これからも困っている人がいたら助けよう。

＜児童の感想＞

・お礼を言ってもらうのでなく、困っている人を助けてあげたい。
・困っている人がいたら積極的に助けたい。

⑦　成果と課題（○成果、●課題）

○　心情円盤を使って主人公の心情を表現させることは、視覚的に分かりやすく有効な手立てである。また、自分と友達の考えの違いを捉えやすく、多様な意見が出た。

○　心情円盤を使って主人公の心情を表現してワークシートに自分の考えを書き、自分の意見をもってから話合いをしたので、多種多様な意見が積極的に出され、主体的な活動となった。

○　追発問し児童の考えを掘り下げながら類型化することにより、ねらいとする価値を高めることができた。

●　話合いを深めるために心情円盤をどのように活用したらよいか、有効な使い方についての検討がまだ不十分であった。

●　「また怒られるかもしれないからもう片付けないよね？」「くずれただんボールは店の人が直せばいいんじゃないの？」など、切り返しや揺さぶりの追発問をすることで、更に高い価値へと引き上げることができる。

系統表

東中校区重点内容項目:「親切・思いやり」

	低学年		中学年		高学年		中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
内容項目	B-(6) 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること		B-(6) 相手のことを思いやり、進んで親切にすること		B-(7) 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること		B-(6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること		
内容項目の概要	自分のことばかりを考えたり、自分の想いだけを主張したりしていては望ましい人間関係を構築することはできない。お互いが相手に対して思いやりの心をもって、接するようにすることが不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そのためには、相手の存在を受入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。具体的には、相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。また、単に手を差し伸べることだけではなく、時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。相手のことを親身になって考えようとする態度を育てることが期待される。 特に学校生活においては、学校の人々や友達など様々な人と直接的に多様な関わり合いをもてるようにすることが求められる。その上で、相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやったりすることを通して、思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが重要である。						思いやりの心は、他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。それは、黙って温かく見守るといった表に現れない場合もある。思いやりの心の根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならない。感謝の心は、主として他者から受けた思いやりに対する人間としての心の在り方である。人間は、互いに助け合い、協力し合って生きている。人が感謝の念を抱くのは、他者の思いやりに触れ、それを有り難いと感じ、素直に受け止めたときである。そして、自分が現在あるのは多くの人々によって支えられてきたからであることを自覚するようになる。人との関わりの中で、温かい人間愛の精神を深めるとともに、これを模索し続けることは極めて大切なことである。		
学年別特質	家族だけでなく家の周りの人や学校の人々、友達などとの関わりが次第に増えてくる。発達的な特質から自分中心の考え方をすることが多いが、様々な人々との関わりの中から、相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。		学校生活を中心として友達同士の交流が活発になるとともに、活動範囲も広がってくる。様々な人々との関わりが次第に増えていく中で、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになる。一方、ともすると他の人々の考え方や感じ方が自分たちの考え方や感じ方と同様であると思い込みがちになることもこの時期の特徴と言われている。そのため、相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になる。		自他を客観的に捉えることができるようになってくる。そのため、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。また、家の周囲や学校といった狭い範囲だけでなく、地域社会における公共の場所など活動範囲がより一層広がり、より多様な人々と接する機会が多くなってくる。		学年が上がるにつれて、自立心の強まりとともに、日々の生活の中で自己を支えてくれている多くの人の善意や支えに気づく一方で、家族など日常的に接している人々に対し、支えられていることを有り難いと思いつつも、疎ましく感じたり、感謝の気持ちを素直に伝えることの厳しさを感じたりしている。特に、自分の存在に深く関わることになると言葉や行動としてうまく思いやりや感謝の気持ちを表現できないこともある。		
指導上の留意事項	○幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにする。 ○身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手の結果として相手の喜びを自分の喜びとして受入れられるようにし、具体的に親切な行為ができるようにする。		○相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるようにする。		○特に相手の立場に立つことを強調し、自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考え、適切な言動をとることができるようにする。 ○人間関係の深さの違いや意見の違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、児童が接する全ての人に広げていくができるようにする。 ○児童が多様な人々と触れ合い、助け合って何かをするような機会を増やすとともに、それらの体験を生かし、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫する。		○単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、根本において自分も他者も、共にかけがえのない存在であるということをしっかり自覚できるようにすることが大切である。思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が、今自分が相手に対して何をもって応答することができるかを考えさせ、結果として自己と他者との絆をより強くするのだということに気付かせたい。 ○互いに支え合う雰ケインを積みながら、温かい人間愛の精神に基づく体験の機会を生かし、人間として生きることに喜びを見いだすとともに、思いやりと感謝の心と態度が育まれていくよう工夫する必要がある。		
資料	「はしのうえのおおかみ」 （第一小・美東小・美西小：わたしたちの道徳） 「るいくんのゴール」 （第一小・美東小：みんなのどうとく） 「あめのひ」 「たんぽぽ」 （美西小：こころつないで）	「公園のおにごっこ」 （第一小・美東小・美西小：みんなのどうとく） 「ぐみの木と小鳥」 （第一小・美東小：みんなのどうとく） 「大きいりんごと小さいりんご」 「でん車の中で」 （美西小：こころつないで）	「新幹線で」 （第一小・美東小：みんなのどうとく） 「耳をおいて出かけられますか」 （第一小：みんなのどうとく）「ホームでのでごと」 （美東小：みんなのどうとく） 「どうしよう」 （美西小：心つないで）	「心と心のあく手」 （第一小・美東小・美西小：わたしたちの道徳） 「心の信号機」 （第一小・美東小：みんなのどうとく） 「ぎゅっとずっと」 「どうすればよかったのだろう」 （美西小：心つないで）	「最後のおくり物」 （第一小：私たちの道徳） 「くずせれ落ちた政ボール箱」 （第一小：文溪堂） 「台湾からの転入生」 「思いもよらぬできごと」 （美東小：みんなのどうとく） 「列車の中で」 「キャンプのできごと」 （美西小：心つないで）	「雪のぼうし」 （第一小・美東小：みんなのどうとく） 「言葉の力・わたしの思い」 （第一小：みんなのどうとく） 「心の宝物」 （美東小：みんなのどうとく） 「最後のおくり物」 （美西小：私たちの道徳） 「もう一つの親切」 （美西小：心つないで）	「おばあちゃんの指定席」 （「自分を見つめる1」） 「夜のくだもの屋」 （「自分を見つめる1」） 「語りかける目」 （「自分を見つめる1」） 「ふたりの子供たちへ」 （「自分を見つめる1」）	「やさしさのかたち」 （「自分を考える2」） 「一番好きで、一番嫌いだった運動会」 （「佐賀のがばいばあちゃん」） 「足りなかった一言」 「やさしい灯り・声をかけられて」 （道しるべ） 「たっちゃんと呼ばれた日」 （道しるべ）	「決勝へ！上村愛子」 （日本標準） 「流れ星」（東京書籍） 「賢者の贈り物」 （私たちの道徳）
内容項目に係る東中校区の取組	東中校区子どもサミット「いじめ防止のスローガン作成や活動等」（第一小・美東小・美西小）								
	あいさつ運動・ハッピーハートフルツリー運動（第一小・美東小・美西小）								
内容項目に係る各校の取組	第一小 学校だいすき 幼保連携あきとあそぶかい 秋のバス旅行 人権集中学習 なかよし集会 美東小 縦割り班活動 運動会：にこにこ玉入れ 美西小 対面式 縦割り班活動 人権旬間 あんしんの家訪問 思いやり月間 6年生を送る会	第一小 1年生をむかえる会 1年生と遊ぶ会 学年ドッチボール大会 人権集中学習 なかよし集会 美東小 縦割り班活動 生活：1年生と遊ぼう 運動会：にこにこ玉入れ 美西小 対面式 縦割り班活動 人権旬間 あんしんの家訪問 思いやり月間 6年生を送る会	第一小 人権集中学習 なかよし集会 手話教室 美東小 縦割り班活動 藤岡特別支援学校の児童との交流会 美西小 対面式 縦割り班活動 人権旬間 あんしんの家訪問 思いやり月間 6年生を送る会	第一小 なかよし集会 人権集中学習 点字教室 美東小 縦割り班活動 総合：福祉体験教室 美西小 対面式 縦割り班活動 人権旬間 あんしんの家訪問 思いやり月間 6年生を送る会	第一小 高齢者体験教室 人権集中学習 なかよし集会 美東小 縦割り班活動 総合：慰霊の杖 美西小 対面式 縦割り班活動 人権旬間 あんしんの家訪問 思いやり月間 6年生を送る会 総合：高齢者・障害者体験、デイサービス訪問	第一小 人権集中学習 なかよし集会 1年生給食の手伝い 美東小 縦割り班活動 総合：慰霊の杖 美西小 対面式 縦割り班活動 「1年生掃除の手伝い」 人権旬間 あんしんの家訪問 思いやり月間 6年生を送る会	人権旬刊 アルミ缶回収	人権旬刊 アルミ缶回収	人権旬間 アルミ缶回収

＜中学校（３年）での道徳授業実践＞

①　主題名　勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深める
　　Ｃ－（１３）勤労

②　教材名　「足踏みミシンの修理屋さん」（道徳ノンフィクション資料　図書文化）

③　ねらい　主人公が葛藤を抱えながらも家業を継ぎ、お客様の喜ぶ姿を見て仕事を続

けていく意思を強くもつ姿について学ぶことを通し、社会貢献することが働くことの重要な意義の１つであることに気付かせる。

④　学びのつながり

	ねらいとする価値
小学校 低学年	働くことのよさを感じて，みんなのために働く。
小学校 中学年	働くことの大切さを知り，進んでみんなのために働く。
小学校 高学年	働くことの意義を理解し，社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。
中学校	勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献する。

⑤　指導の工夫

○　実際にマスザワミシンさんを訪問し撮ってきた写真を掲示することで、生徒が身近な問題としてとらえられるようにする。

○　増澤さんの気持ちの変化を時系列で追い、板書をまとめることで、生徒が主人公の気持ちの変化をわかりやすく理解できるようにする。

○　１人１人がきちんと自分の意見を持ち、発表し、友達の意見を聞いて再度自分の考えを見直しより深く考えることができるために、班で活動する場面と個人の意見を発表してもらう場面をバランスよく授業に取り入れる。

⑥　学習の様子

将来の職業について考えるとき、自分自身の適性や長所、そしてやりたいことが中心になってしまう。しかし、職業はあくまでも社会貢献の側面があるということを感じさせたい。職場体験のチャレンジウィークの感想として生徒たちは、働くことに対して社会貢献の側面があることを感じた生徒は一人しかいなかった。しかし、主人公が夢を持っていたものの、ミシンを直した時のお客さんの喜ぶ姿にミシンを直すことに生きがいを感じていくことをじっくり考える中で、「将来は人に役立つことをしたい」といった実感をもつようになった。

⑦　生徒の感想

「なぜ仕事を続けられたのだと思いますか。」

・自分がつがなければならないという、責任感があったから。
・ミシンが息を吹き返すのがうれしい。
・長男だという責任感があったが、それだけでなく、ミシンを直すことでたくさんの人の喜ぶ顔が見られたから。
・自分が必要とされているから。
・仕事のやりがいがあったから。

「人は何のために働くのだと思いますか。」

・家族を養うため、生活のために働いている。
・人の役に立つため。
・お金も大切だけど、やりがいがある仕事もいい仕事だなと思った。
・人に喜んでもらえるというのは、うれしいことだと思った。だれかのためになる人になりたい。

・人は、自分のため、人のために働くのだと思った。自分がなりたいと思った仕事に必ず就けるわけではないと知った。でもやりがいを感じられるのはいいと思った。
・最初は、長男で継がなくてはならないからなどという理由で、仕方なく始めた仕事でも、嬉しいことや楽しいこと、やりがいがあるのだとわかった。
・人はお金や家庭のためなど、自分のこと以外に、お客様や社会のために働くのだと思った。将来やりがいを感じられる職に就きたいと思う。
・将来について、いろいろ考えられてよかった。
・あきらめずにがんばろうと思った。

系統表

東中校区重点内容項目:「勤労、公共の精神」

	低学年		中学年		高学年		中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
内容項目	C－(12)働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。		C－(13)働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。		C－(14)働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。		C-(12) 社会参画の意義と社会連帯の自覚を深め、公共の精神をもってよりよい社会に実現に努めること C-(13) 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること		
内容項目の概要	生きていくには、自分の仕事に誇りと喜びを見いだし、生きがいをもって仕事を行えるようにすることが大切である。働くことは、日々の糧を自ら得て自立するなど単に自分の生活の維持向上を目的とすることだけでなく、働くこと自体が自分に課された社会的責任を果たすという意味においても重視する必要がある。人間生活を成立させる上で働くことは基本となるものであり、一人一人が働くことのよさや大切さを知ることにより、みんなのために働こうとする意欲をもち、社会に対する奉仕や公共の役に立つ喜びを味わうことができる。このように働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうことを通して、その意義や役割を理解し、それを現在の自分が学んでいることとのつながりで捉えることは、将来の社会的自立に向けて勤労観や職業観を育む上でも重要なことである。今日、社会環境や産業構造等の変化に伴い働き方が一様でなくなり、働くことに対する将来の展望がもちにくくなっている。働くことや社会に奉仕することの意義の理解は大切であるが、このことは一律に望ましいとされる勤労観・職業観を教え込むことではない。身近な人から集団へと人との関わりを広げながら、児童一人一人が働く意義や目的を探求し、みんなのために働くことの意義を理解し、集団の一員として自分の役割を積極的に果たそうとする態度を育成することが重要である。						個人が安心・安全によりよく生活するためには、社会の形成に主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たすことが大事になる。自分が生きている身の回りを含めた社会に実際に関わっていこうとする態度を育て、多くの人々と助け合い励まし合いながら社会連帯を深めることが求められる。社会の発展に寄与する態度を養うことが大切である。 勤労は個人や家庭の生活を維持するという面、社会を支えるという面があり、自らの内面にある目的を実現するために働くという考え方もある。人は働くことの喜びを通じて生きがいを感じ、社会とのつながりを実感することができる。勤労を通して社会に貢献するということを自覚し、充実した生き方を追求し実現していくことが、一人一人の真の幸福につながっていくことにもなる。		
学年別特質	何事にも興味をもって生き生きと活動し、みんなのために働くことを楽しく感じている児童が多い。そのような実態を生かし、自分たちが行った仕事がみんなの役に立つことのうれしさ、やりがい、そのことを通して自分の成長などを感じられるようになる。		みんなのために働くことで楽しさや喜びを味わうことがある一方で、働くことを負担に感じたり、面倒に思ったりする様子も見られる。このことから、自分の役割を果たし、力を合わせて仕事をすることの大切さを理解できるようにするとともに、進んで働こうとするようになる。		勤労を尊ぶ心を育てながら、働くことの意義を理解して社会の役に立つことができるようにする必要がある。この段階の児童は、仲のよい仲間と一緒にする仕事には意欲的に取り組むが、共同作業や集団での仕事などを嫌う傾向がある。中学校への進学を意識する時期に、仲間と協力して学ぶことの楽しさを通して、汗を流すことの尊さや満足感、仕事を成し遂げた際の喜びや手応えなど、働く意義や社会に奉仕する喜びを児童一人一人に体得させ、進んで実践しようとする意欲や態度を養うようにする。		学年が上がるにつれて、社会において人間関係が希薄化する傾向が見られ、他者に対する配慮を欠き、自己中心的な言動をとってしまうことも少なくない。本来自己中心的で自分勝手な言動をよくないとおもう心が内面には十分あり、誰もが望むよりよい社会の実現について純粋に考えることもできる。社会の一員としての自分の役割や責任の自覚が芽生えるとともに、自らの人生や生き方への関心が高まり、自分の生き方を模索し、夢や理想をもつようになる。一方で、現実的に進路の選択を迫られる時期でもある。		
指導上の留意事項	学級の清掃や給食などの当番活動、学級生活の充実に向けた係活動、家庭や地域社会での決められた仕事など、みんなのために役に立とうとする意欲や態度に結びつけるようにする。		身の回りの生活の中で、集団の一員としてできることについて考え、自分ができる仕事を見つけたり、集団生活の向上につながる活動に参加したりして、みんなのために働こうとする意欲や態度を育むようにする。		勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを考えさせることが求められる。また、ボランティア活動など、社会への奉仕活動などから得た充実感を基に、勤労と公共の精神の意義を理解し、公共のために役に立とうとする態度を育てるようにする。		○学級活動や生徒会活動に積極的に参画するなどの体験を生かし、公共の精神についての考えを深めさせる。 ○進んで社会と関わり積極的な生き方を模索しようとする態度を育て、主体的に考えられるようにする。 ○体験的な学習を生かして、働くことの重要性について理解を深めさせる。 ○キャリア教育と関連させて、職場体験活動やボランティア活動などの体験活動を生かすなどの工夫が求められる。 ○働くことについての理解を通して職業についての正しい考え方を育てる。		
資料	「ケイくんの たくはいびん」 （第一小・美東小：みんなのどうとく） 「そうじ」 （第一小・美東小：みんなのどうとく） 「しょくじのよういができたよ」 （美西小：こころつないで）	「ふしぎな気もち」 （第一小・美東小：みんなのどうとく） 「野さいパーティー」 （第一小・美東小：みんなのどうとく） 「黒ぱんがかり」 「ゆかみがき」 （美西小：こころつないで）	「わらじ作り」 （第一小・美東小：みんなのどうとく） 「お母さんの朝市」 「ゆかみがき」 （美西小：心つないで）	「みんなのために働くバックヤードでも」 「はたらくことの大切さを知って」 （第一小：わたしたちの道徳） 「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」 （美東小：みんなのどうとく） 「気持ちのよいあせ」 （美西小：心つないで）	「ボランティアクラブに入って」 「牛乳配り」 （第一小：文溪堂） 「ギブ・キッズ・ザ・ワールド」 「小さな手から」 （美東小：みんなのどうとく） 「青い海を取りもどせ」 「列車事故で」 （美西小：心つないで）	「よみがえれ日本海」 （第一小：みんなのどうとく） 「マザー・テレサ」 （第一小・美東小：みんなのどうとく） 「この思いをフェルトペンにたくして」 （美東小：みんなのどうとく） 「病室607号」 「どうも私にはわからない」 （美西小：心つないで）	「バスと赤ちゃん」 （「自分を見つめる1」） 「小さな一歩」 （「自分を見つめる1」） 「午前一時四十分」 （「自分を見つめる1」）	「老門番と茶屋の老女」（自分を考える2） 「あるレジ打ちの女性」（とっておきの道徳授業7） 「日本でいちばん大切にしたい社会」（とっておきの道徳授業8）	「たんぼぼ作業所」（東京書籍） 「足踏みミシンの修理屋さん」（図書文化）
東中校区の取組内容項目に係る	東中校区子どもサミット「いじめ防止のスローガン作成や活動等」								
各校の取組内容項目に係る	第一小 大掃除 お手伝い作戦 係・当番活動 美東小 係・当番活動 美西小 PTA親子環境整備作業	第一小 大きくなあれ わたしはのやさい 野菜作りと世話 係・当番活動 美東小 係・当番活動 美西小 PTA親子環境整備作業	第一小 大掃除 係・当番活動 美東小 係・当番活動 美西小 PTA親子環境整備作業	第一小 係・当番活動 大そうじ 美東小 プール清掃 美西小 プール清掃 運動会 PTA親子環境整備作業	第一小 プール清掃 臨海学校 美東小 プール清掃 笠川清掃 美西小 プール清掃 運動会 PTA親子環境整備作業	第一小 プール清掃 環境美化作業 美東小 プール清掃 環境整備作業 笠川清掃 美西小 プール清掃 運動会 PTA親子環境整備作業 受校作業	環境整備作業 （春・秋）	環境整備作業 （春・秋）　チャレンジウィーク	環境整備作業 （春・秋）

５　事業の成果及び課題

(1) 事業の成果

①　東中校区の重点項目である「勇気・強い意志」「思いやり」「勤労・公共の精神」についての教育活動や資料も載せた系統表を作成することができた。この系統表により、小中一貫した道徳教育の流れについて具体的に把握することができると共に、活用することで各教育活動のつながりがわかり、より重点項目を意識した実践ができるようになった。

②　道徳教育講演会を行うことで、道徳の教科化を見据え、求められている道徳の授業について理解を深めるとともに、学年による読み物資料の構成の違いや、発問の工夫など、授業づくりの大切なポイントについて具体的に知ることができ、教師の指導力の向上につなげることができた。

③　地域や家庭に道徳の指導の様子を学級通信やＷｅｂページで発信したり、道徳の授業で行った内容項目について家庭で考えさせるような取組を行ったりすることで、地域や家庭と連携した道徳教育を行うことができた。

(2) 今後の課題

①　重点項目についての系統表をより活用し、系統表に沿った実践を行うとともに、他の内容項目に関わる系統表も作成し、さらに、小中一貫した道徳教育を実践していく。

②　系統表と別葉、年間指導計画を参照しながら、他の教科においても道徳教育を意識して、教育活動全体を通じて、道徳教育を推進していく。

③　東中校区で取り組んだ成果を市内全体に広げ、道徳における小中一貫教育がさらに推進されるよう情報提供していく。

６　参照できるホームページ

http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/（藤岡市教育委員会）

http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1010001（藤岡第一小学校）

http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1010006（美九里東小学校）

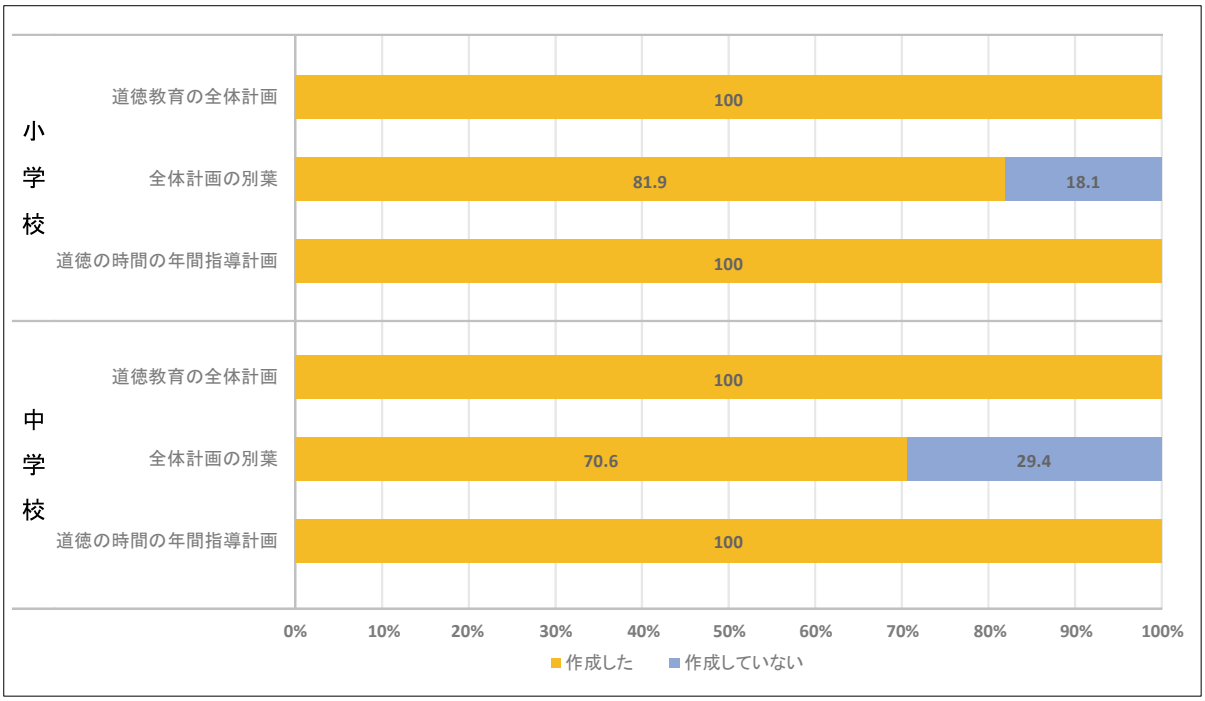
http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1010007（美九里西小学校）

http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1020001（東中学校）

教育課程の編成・実施状況調査（道徳）の概要

（平成２８年１０月実施）

○道徳教育に係る各種計画の作成状況



道徳教育の全体計画及び道徳の時間の年間指導計画は、全ての小・中学校で整備されている。各教科等における道徳教育に関わる指導の内容を整備したもの等、全体計画の別葉については、小学校81.9％、中学校70.6％と、前年度より整備が進んでいる。

来年度は、小学校において改正学習指導要領の全面実施に向けた移行期間の最終年を迎える。校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心に機能的な推進体制を整え、各校における全体計画の別葉に基づいて各教科等、教育活動全体を通じた道徳教育を実施していくとともに、道徳の時間の授業改善や評価等を充実させていくことが望まれる。

35ページから示した「『今後の道徳教育の充実に向けて』～教科化に向けて、各学校で取り組んでいただきたいこと～」を参考に、各校における取組を進め、平成30年度の全面実施（中学校は31年度から）を迎えていただきたい。

「特別の教科　道徳」の指導方法・評価等について（報告）【概要】

（平成28年7月22日　道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）

≪道徳科の指導方法≫

○　単なる話し合いや読み物の登場人物の心情の読み取りに偏ることなく道徳科の質的転換を図るためには、学校や児童生徒の実態に応じて、問題解決的な学習など質の高い多様な指導方法を展開することが必要。

≪道徳科における評価の在り方≫

【道徳科における評価の基本的な考え方】

○　児童生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側からみれば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料。

○　道徳科の特質を踏まえれば、評価に当たって、

- 数値による評価ではなく、記述式とすること、
- 個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること、
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価（※）として行うこと、
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること、
- 道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること

が求められる。

※個人内評価・・・児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達の段階に応じ励ましていく評価

【道徳科の評価の方向性】

○　指導要録においては当面、一人一人の**児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子**について、発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、

- 他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、**一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか**

（自分と違う意見を理解しようとしている、複数の道徳的価値の対立する場面を多面的・多角的に考えようとしている等）

- 多面的・多角的な思考の中で、**道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**

（読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている、道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え考えようとしている等）

といった点に注目して見取り、**特に顕著と認められる具体的な状況を記述**する、といった改善を図ることが妥当。

○　評価に当たっては、**児童生徒が一年間書きためた感想文をファイル**したり、1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して変容を見取るのは難しいため、**年間35時間の授業という長い期間で見取ったりする**などの工夫が必要。

○　道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は、**「各教科の評定」や「出欠の記録」等とは基本的な性格が異なる**ものであることから、**調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要**。

≪発達障害等のある児童生徒への必要な配慮≫

○　児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮が必要。

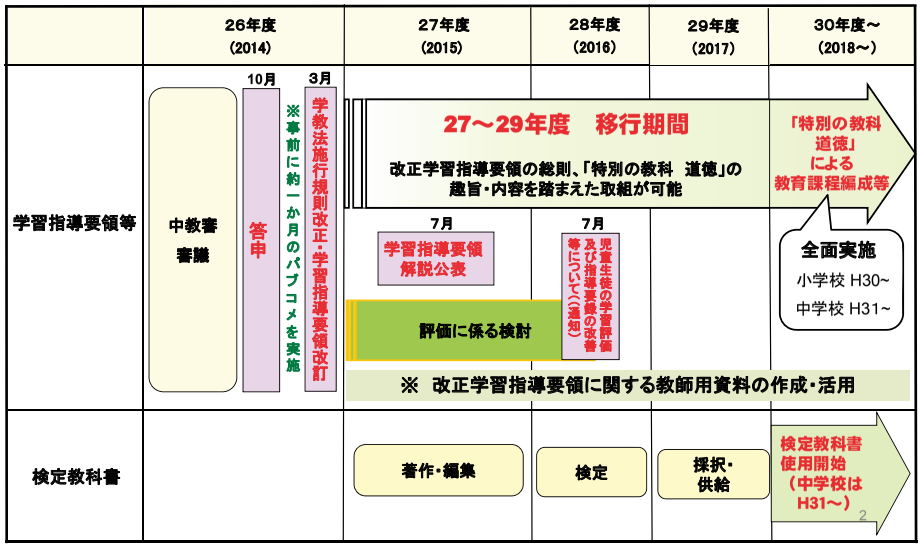
≪条件整備≫

○ 国や教育委員会等において、多様な指導方法の確立や評価の工夫・改善のために必要な条件を例示。

「今後の道徳教育の充実に向けて」

～教科化に向けて、
各学校で取り組んでいただきたいこと～

道徳の教科化に向けての学習指導要領改訂スケジュール



授業の在り方を見直した方がよい授業とは ①

読み取り道徳 ➡ **考える道徳**

■ 読み物資料の登場人物の心情理解に終始する授業

■ 自分との関わりで道徳的価値を考える授業

気持ちの変化を捉える
気持ちに共感させる

自分自身を見つめる
人物に自我関与して自分との関わりで考える

※ 決して今までの道徳の全否定ではない。
読み物教材を使ってはいけないということでもない。

授業の在り方を見直した方がよい授業とは ②

押し付け道徳 ➡ **考える道徳**

■ 望ましいと思われること、決まりきったことを言わせたり、書かせたりする授業

■ 自分との関わりで多面的、多角的に考える授業

何が大切か
どうすることが望ましいのか

どのようなわけで大切なのか
どうすることが考えられるか

児童生徒はおおよそ分かっている

教科化に向けて
取り組んでいただきたいこと

その１	道徳の時間の指導体制の充実
その２	道徳の時間の授業改善
その３	道徳の時間の評価
その４	全体計画、年間指導計画の整備
その５	家庭や地域社会との連携

その１　道徳の時間の指導体制の充実

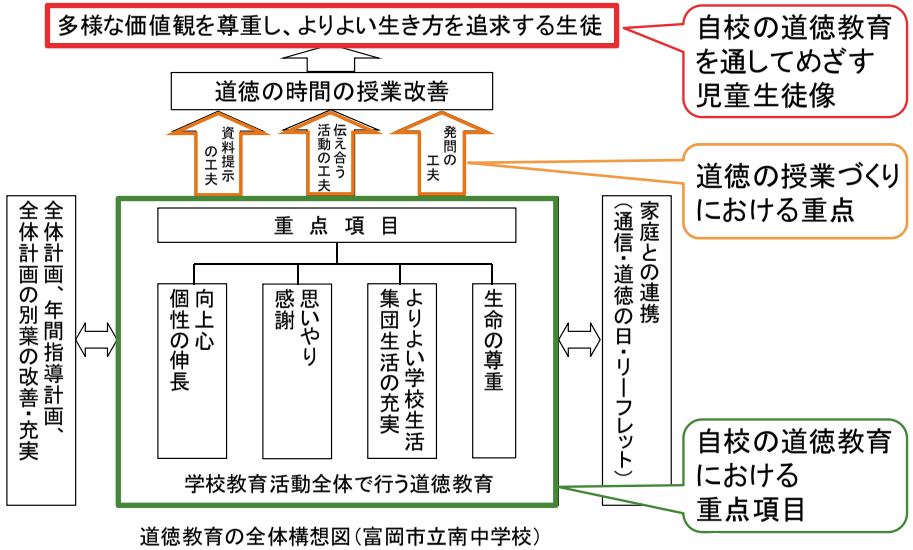
校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。

（改正学習指導要領解説　小学校P83）

学級担任の教師が行うことを原則とするが、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。

（改正学習指導要領解説　中学校P84）

自校の道徳教育の方針が明確になっていますか？



道徳教育の全体構想図（富岡市立南中学校）

道徳教育推進教師を支える校内の体制づくりができていますか

道徳教育推進教師の役割

- ア　道徳教育の指導計画の作成に関すること
- イ　全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
- ウ　道徳の時間の充実と指導体制に関すること
- エ　道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- オ　道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- カ　授業の公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- キ　道徳教育の研修の充実に関すること
- ク　道徳教育における評価に関すること

※小学校学習指導要領解説　道徳編　平成20年8月　P64

これらの役割を教員全員で分担し、道徳教育推進教師が全体を意識して各担当の取組を調整したり、助言したりしていけるようにすることが大切である。

その2　道徳の時間の授業改善

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

（改正学習指導要領解説　小学校P15、中学校P13）

道徳教育の課題と特別教科化がめざすもの

（「道徳教育の在り方に関する懇談会」報告書(H25.12.26)における指摘より）

量的課題

・歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮がある。

・他教科に比べて軽んじられ、他の教科等に振り替えられていることもあるのではないか。

⇨ 年間35時間単位時間が確実に確保されるという **量的確保**

質的課題

・教員をはじめとする教育関係者にもその理念が十分に理解されておらず、効果的な指導方法も共有されていない。

・地域間、学校間、教師間の差が大きく、道徳教育に関する理解や道徳の時間の指導方法にばらつきが大きい。

・授業方法が、読み物の登場人物の心情を理解させるだけなどの型にはまったものになりがちである。

・学年が上がるにつれて、道徳の時間に関する児童生徒の受け止めがよくない状況にある。

⇨ 子どもたちが道徳的価値を理解し、これまで以上に深く考えてその自覚を深めるという **質的転換**

日々の道徳授業の量的確保を

道徳授業の質的転換を

考え、議論する道徳

考える
主体的に
自分との関わりで

多様な考え方、
感じ方と出合い
交流する

自分の考え方、感じ方を明確にする

自分の考え方、感じ方をより明確にする

「考え、議論する道徳」とは？

二項対立を例に

モラル・ディスカッション

「AかBか」を議論する

- 二つの選択肢の一方を選ぶのではなく、よりよい解決や合意を求めて学び合う
- 自分と異なる考えから学ぶことを期待する
- つながり合ってよりよいものをめざす議論

参考;「特別の教科　道徳　Q&A」(松本美奈／貝塚茂樹／西野真由美／合田哲雄)

「考え、議論する道徳」とは？

道徳的価値の理解をより深めていくためのプロセス

自分の考え

⇩

友だちと互いの考えを交流

⇩

交流した考えの比較・検討

⇩

新たな気付き、思考の深まり

⇩

納得解　（自分で納得でき、周囲の納得も得られる解）

⇨ 新たな問い

話合い
体験的な活動
（役割演技など）

自分の考えとこんな違いがあるな

友だちのこういう考えがいいな

道徳授業をどのように構想するか

「明確な指導観」をもつとは‥

1　ねらいとする道徳的価値（道徳の内容）について、学習指導要領に基づき、明確な考えをもつ。

2　明確な価値観を基に子供たちにどのように指導し、子供たちが何を学び、その結果としてのよさや課題を確認し、本時で学ばせたいことを明らかにする。

3　授業者の明確な価値観、児童生徒観をもとに、教材の活用の仕方を明らかにする。

価値観
児　童
生徒観
教材観

指導観

学校の道徳教育の重点目標

学校の道徳教育の重点内容項目

教育活動全体で行う道徳教育

教育活動全体で行う道徳教育の結果としての子供の実態

児童生徒に考えさせたいこと、学ばせたいこと

児童生徒に考えさせたいこと、学ばせたいことに基づく教材活用

登場人物への自我関与　問題解決的な学習　体験的な学習　…

現実には、これがないまま始まる教材研究が多い。

指導観：授業者の価値観　児童生徒観　教材観

授業の実施　道徳的諸価値の理解の基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習

児童生徒に考えさせたいこと、学ばせたいこと

あいまい

この教材を使って
どのように
指導しようかな？

「読み取り道徳」
に陥りやすい
（児童生徒の実態とずれた
内容にもなりやすい）

はっきり

このようなことを
児童生徒に考えさせたいな

そのためには、この教材を
どのように活用すれば
よいだろうか？

「考え、議論する道徳」
に向かいやすい
（児童生徒に考えさせたいことに基づいた発問構成、話合い活動、役割演技等につながる）

質の高い多様な指導方法【例】

	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習
ねらい	教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深める。	児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することを通して、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
導入	道徳的価値に関する内容の提示	問題の発見や道徳的価値の想起など	道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など
展開	登場人物への自我関与 道徳的価値と自分との関係での振り返り	道徳的な問題状況の分析 解決策の構想など 解決策の選択や決定 諸価値の理解の深化 課題発見	道徳的な問題場面の把握や考察 問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施 道徳的価値の意味の考察
終末	まとめ	まとめ	まとめ

※ これらの指導方法は、独立した「型」を示したものではなく、多様な指導方法の「例示」である。

「私たちの道徳」の活用①

～多様で効果的な
指導方法の工夫～

改正学習指導要領の内容の先行実施に向けて

多様で効果的な指導方法の工夫（「私たちの道徳」の活用例）

【小学校1・2年】道徳の時間

①資料「はしの上のおおかみ」を読んで話し合う。
○うさぎやきつねを追い返して意地悪をしているおおかみは、どのような気持ちか。
○くまに橋を渡らせてもらったおおかみは、どのようなことを思っていたのか。
※役割演技の活用
○おおかみは、くまの後ろ姿を、どのような気持ちでいつまでも見ていたのか。
○うさぎを抱き上げ、親切な行いをしたおおかみは、どのようなことを思ったのか。
○おおかみが言った最初と最後の場面の「えへん、へん。」の言葉に込められた気持ちは、どのようなものか。

②親切な行いができたときのことやそのときの気持ちを話し合う。

◆役割演技の活用

おおかみが、くまに橋を渡らせてもらった場面で役割演技を取り入れ、親切にされたときのうれしさについて考えさせることができる。教師がくまの役になり、児童がおおかみの役になって、橋を渡らせてもらい、くまの後ろ姿を見ているときの気持ちを実感として捉えさせ、そのときの気持ちを表現させるようにしたい。

20

多様で効果的な指導方法の工夫（「私たちの道徳」の活用例）

【小学校3・4年】道徳の時間

①56Pを読んで、知っている挨拶を書き込み、発表し合う。また、その挨拶に込められている気持ちについて話し合い、声に出して挨拶をしてみる。

②57Pを読んで、友達と話すときと大人と話すときとでは、どのようなことに気を付けて言葉を使い分ければよいか話し合う。

③58Pを読んで、振る舞いで気を付けていることについて話し合う。例を挙げて実際にやってみる。

④礼儀とは、どのようなことかについて話し合う。

◆コミュニケーションに係る具体的な動作や所作の在り方等に関する学習

21

多様で効果的な指導方法の工夫（「私たちの道徳」の活用例）

【小学校5・6年】道徳の時間

①自由とはどのようなことか、自由だからできることは何かについて話し合う。

②33Pを読んで、三つの例に関して、自由を生かす自律的で責任ある行動について話し合う。

- ○ 時間の使い方
- ○ 小遣いの使い道
- ○ 目標への挑戦

③自由を生かす自律的で責任ある行動ができた経験やそのときの気持ちについて話し合う。

④31Pの二つの格言を読んで、その意味、自由だからこそ大切にしなければならないことについて話し合う。

◆言語活動の充実
問題解決的な学習

「私たちの道徳」（小学校5・6年）33P

22

多様で効果的な指導方法の工夫（「私たちの道徳」の活用例）

【中学校】道徳の時間

①資料「二通の手紙」を読んで話し合う。
　○規則に反して姉弟を入園させた元さんの判断に賛成か反対かについて考え、その理由も含めて意見を交流する。また、相手側の意見を聞いて考えたことも述べる。

　※弟の誕生日だからという姉の思い、また、重大な事故が起きることもあるということについても考慮して考えさせるようにする。

　○自分が元さんの立場だったら、このようなとき、どのように対応すると思うか。

②法やきまりはなぜあるのか、それを破ることでどのような問題が起きるのかについて話し合う。

◆多様な意見や自分と異なる考え方なども踏まえて、多面的・多角的に考えさせることを重視するなど、発達の段階を踏まえた発問の工夫

23

発達障害のある児童生徒に対する道徳科の指導について 【例】

	学習上の困難がある児童生徒	集中することや継続的な行動をコントロールすることに困難がある児童生徒	他人との社会的関係の形成に困難がある児童生徒
考えられる障害	学習障害（ＬＤ）等	注意欠陥他動性障害（ＡＤＨＤ）等	自閉症等
指導上の必要な配慮	・言葉の意味や正しい名称を知らないことが多いので、言葉の意味などを丁寧に伝える。 ・提示する教材などには、音声による情報を付け加える。 ・自分の考えを文字で表現したり、文字で書かれた他者の意図を読み取ったりすることが苦手なので、言語コミュニケーションの方法を文字言語のみに限定しない。 など	・適度な時間で活動が切り替わり、注意が持続できるようにする。 ・成長が認められる行動や発言があった場合は、行動や発言のあった都度、評価する。 ・「あと五分」「ここまでやったら」など、短期的で具体的な見通しを示して努力できるようにする。 など	・他者の心情を理解するために、役割を交代して動作化や劇化を行う。 ・分かりやすく伝えるために、イラストにしたりせりふを書き込んだりすることができるようにする。 ・ルールは明文化する。同時に、本人が理解してもこだわり等により変えられない場合もあると理解しておく。 など

その3　道徳の時間の評価

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

（改正学習指導要領解説　小学校P104、中学校P107）

道徳科における評価の在り方について

【道徳科における評価の基本的な考え方】

○児童生徒側から見れば・・・自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくもの
教師側から見れば・・・・・・・教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料

○道徳科の特質を踏まえれば、評価に当たって、
- 数値による評価ではなく、記述式とすること、
- 個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること、
- 他の児童生徒との比較による相対評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと、
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること、
- 道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること

が求められる。

（平成28年7月22日　道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）

道徳科における評価の在り方について

【道徳科の評価の方向性】

○指導要録においては当面、一人一人の児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、
- **自分と違う意見を理解しようとしている、複数の道徳的価値の対立する場面を多面的・多角的に考えようとしている　等**
- **読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている、道徳的価値を実現することの難しさを自分ごととして捉え考えようとしている　等**

といった点に注目して見取り、特に顕著と認められる具体的な状況を記述する、といった改善を図ることが妥当。

○評価に当たっては、児童生徒が一年間書きためた感想文をファイルしたり、1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して変容を見取るのは難しいため、年間35時間の授業という長い期間の中で見取ったりするなどの工夫が必要。

○道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は、「各教科の評定」や「出欠の記録」等とは基本的な性格が異なるものであることから、調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすることが必要。

（平成28年7月22日　道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）

道徳科における評価の在り方について

道徳の授業で評価すること

○個々の内容項目の達成状況
- ~~思いやりがどれくらいあるか~~
- ~~国や郷土を愛する心がどれくらいあるか~~

○気付きや深まり、実践への意欲
- 学習の中で、自分の体験を思い出して、自分ごととして考えようとしている
- 自分とは違う考えから学んでいる
- 議論の中で対立する見方を乗り越える視点を出そうとしている
- 学んだことをどう生かせるかを具体的に考えている

参考;「特別の教科　道徳　Q&A」（松本美奈／貝塚茂樹／西野真由美／合田哲雄）

その4　全体計画、年間指導計画の整備

各学校においては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、（外国語活動）、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、道徳科の年間指導計画を作成するものとする。なお、作成に当たっては、第2に示す（各学年段階の）内容項目について、（相当する）各学年において全て取り上げることとする。その際、児童（生徒）や学校の実態に応じ、2学年間（3学年間）を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする。

（改正学習指導要領解説　小学校P70、中学校P69）

道徳教育　・・・教育活動全体を通じて行う

各教科等の時間や日常生活指導を通して行う道徳教育

国語　社会　算数・数学　理科　音楽

生活　図工・美術

技術・家庭　体育　外国語　総合的な学習の時間　特別活動

各教科等の特質（目標）を視点として

日常生活指導をとおして

○子どもが登校してから下校するまで
○プラス面をよりプラスに、マイナス面をプラスに
○即効性を求める

主として道徳的実践の指導

道徳の時間

○週１時間の授業で
○子どもが将来出会うであろう様々な場面で主体的に道徳的な行為ができるように
○即効性を求めない

内面的資質の育成

全体計画の別葉の見直し・改善

～伊勢崎市立名和小学校の実践から～

全体計画の別葉を学年ごとに職員室に掲示

⇩

道徳の時間や他の教科の授業実践を踏まえて、補充・深化・統合の関連や効果の有無の確認

⇩

加除修正

「私たちの道徳」の活用②

新たな内容項目への対応

いじめ問題への対応

改正学習指導要領の内容の先行実施に向けて

新たな内容項目への対応（小学校）

平成28年度版「わたしたちの道徳」の新たな内容項目への対応

学　年	新たな内容項目		わたしたちの道徳
小学校低学年	個性の伸長	A(4) 自分の特徴に気付くこと	・よいところを見つけたよ 「まんががすき」
	公正、公平、社会正義	C(11) 自分の好き嫌いにとらわれないで接すること	・みんなとなかよく
	国際理解、国際親善	C(16) 他国の人々や文化に親しむこと	・ほかの国のことを知ろう
小学校中学年	相互理解、寛容	B(10) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること	・周りの人たちと、もっと仲良くするために
	公正、公平、社会正義	C(12) 誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること	・分けへだてをしない
小学校高学年	よりよく生きる喜び	D(22) よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じること	・生きる喜びを感じて 「真海のチャレンジ」

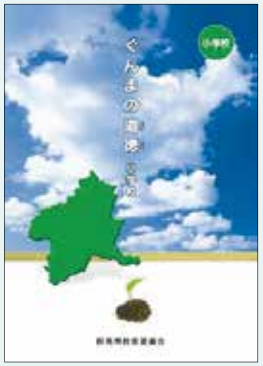
いじめ問題への対応

いじめに正面から向き合う内容や善悪の判断、信頼・友情、規範意識、公平・公正など
の内容を充実

小学校 1・2年	・「およげないりすさん」（読み物資料） ・人としてしてはならないことに関すること
小学校 3・4年	・「同じ仲間だから」（読み物資料） ・人として守らなくてはならないきまりに関すること
小学校 5．6年	・「愛の日記」（読み物資料） ・「いじめられている君へ」（メッセージ）
中学校	・「卒業文集最後の二行」（読み物資料） ・「いじめ撲滅宣言」

道徳郷土資料集「ぐんまの道徳」の活用

「C　郷土を愛する態度」
「D　自然愛護」
の授業の充実



～郷土の特色が生かせる教材の使用～

「C 郷土を愛する態度」「D 自然愛護」の授業の充実

1　教材の開発と活用の創意工夫

(2)　多様な教材を活用した創意工夫ある指導

道徳科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが、道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる。様々な題材について郷土の特色が生かせる教材は、児童にとって特に身近なものに感じられ、教材に親しみながら、ねらいとする道徳的価値について考えを深めることができるので、地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい。

改正学習指導要領解説　小学校P100

道徳郷土資料集「ぐんまの道徳」の活用

→　児童生徒に身近で親しみを与える授業を

その５　家庭や地域社会との連携

道徳科の授業を公開したり、授業の実施や地域教材の開発や活用などに家庭や地域の人々、各分野の専門家等の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。
（改正学習指導要領解説　小学校P97、中学校P100）

（1）道徳の授業公開

【例】・通常の授業公開による参観や校長による自校の道徳教育についての説明
・授業参観後の講演会や協議会の実施
・保護者参加型の授業公開（児童生徒との対話・意見交換、授業参観者のグループ協議など）

（2）道徳の授業への積極的な参加や協力を得る工夫

【例】・授業実施前に保護者へのアンケートや児童生徒への手紙等の協力依頼
・青少年団体、福祉関係、スポーツ関係、伝統文化継承者など、地域や社会で活躍する人々の授業への協力及び人材リストの作成

家庭や地域との連携の強化の工夫（富岡市立南中学校の実践）

毎月19日を家庭における「道徳の日」に

①毎月テーマを決め、関連資料を「私たちの道徳」などから選んで提供し、親子で話題にする機会を設定

②日々の実践、生徒の感想や家庭で取り組んでほしいことを載せた「Myハート通信」の発行

・保護者の道徳教育への関心と期待の高まり
・学校と家庭の信頼関係の深まり

教科化に向けて取り組んでいただきたいこと

その１	道徳の時間の指導体制の充実
その２	道徳の時間の授業改善
その３	道徳の時間の評価
その４	全体計画、年間指導計画の整備
その５	家庭や地域社会との連携

道徳教育実践事例集

平成２９年３月　発行

編集・発行　群馬県教育委員会義務教育課

〒371-8570　前橋市大手町一丁目１番１号

電話：027-226-4612

道德